

2019年度
大学院キャリアデザイン学研究科
講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

[X8001]	キャリア調査研究法基礎 [熊谷 智博] 春学期授業/Spring	1
[X8002]	量的調査法 [齋藤 嘉孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	2
[X8003]	質的調査法 [佐藤 恵] 秋学期前半/Fall(1st half)	2
[X8004]	生涯発達心理学 [岡田 昌毅] 春学期集中/Intensive(Spring)	3
[X8005]	教育心理学 [田澤 実] 秋学期授業/Fall	4
[X8006]	産業・組織心理学 [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	5
[X8007]	キャリアカウンセリング論 [廣川 進] 春学期授業/Spring	6
[X8008]	コミュニティとキャリア [田中 研之輔、安田 節之] 秋学期授業/Fall	7
[X8009]	キャリアガイダンス論 [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	9
[X8010]	教育経営論 [高野 良一] 春学期授業/Spring	10
[X8011]	キャリア教育論 [上西 充子] 春学期授業/Spring	11
[X8012]	教育社会学 [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	12
[X8013]	生涯学習論 [笹川 孝一] 秋学期授業/Fall	13
[X8014]	キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	15
[X8015]	人的資源管理論 [藤本 真] 秋学期授業/Fall	16
[X8016]	経営組織マネジメント論 [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	18
[X8017]	人事組織経済学 [上原 克仁、都留 康] 秋学期集中/Intensive(Fall)	19
[X8018]	職業キャリア政策論 [松浦 民恵] 秋学期授業/Fall	21
[X8020]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [上西 充子] 春学期授業/Spring	22
[X8022]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	23
[X8023]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	24
[X8024]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	25
[X8025]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	26
[X8026]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [笹川 孝一] 春学期授業/Spring	27
[X8027]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	28
[X8028]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	29
[X8029]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [高野 良一] 春学期授業/Spring	30
[X8030]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	31
[X8031]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [田澤 実] 春学期授業/Spring	32
[X8032]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [田中 研之輔] 春学期授業/Spring	33
[X8033]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	34
[X8034]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [松浦 民恵] 春学期授業/Spring	35
[X8035]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [廣川 進] 春学期授業/Spring	36
[X8036]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [安田 節之] 春学期授業/Spring	37
[X8037]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [熊谷 智博] 春学期授業/Spring	38
[X8040]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	39
[X8041]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [梅崎 修] 秋学期授業/Fall	40
[X8042]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [木村 琢磨] 秋学期授業/Fall	41
[X8043]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	42
[X8044]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [齋藤 嘉孝] 秋学期授業/Fall	42
[X8045]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	43
[X8046]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [笹川 孝一] 秋学期授業/Fall	44
[X8047]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	45
[X8048]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	46
[X8049]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [高野 良一] 秋学期授業/Fall	47
[X8050]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	48
[X8051]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [田澤 実] 秋学期授業/Fall	49
[X8052]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [田中 研之輔] 秋学期授業/Fall	50
[X8053]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	51
[X8054]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [松浦 民恵] 秋学期授業/Fall	52
[X8055]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	53
[X8021]	キャリアデザイン学演習Ⅰ [梅崎 修] 春学期授業/Spring	54
[X8056]	キャリアデザイン学演習Ⅱ [安田 節之] 秋学期授業/Fall	55

【X8057】	キャリアデザイン学演習Ⅱ [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall	55
【X8060】	キャリアデザイン学演習Ⅰ (代表シラバス) [佐藤 恵、坂爪 洋美] 春学期授業/Spring.....	56
【X8061】	キャリアデザイン学演習Ⅱ (代表シラバス) [佐藤 恵、坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	57

SOC5M1 - 1101

キャリア調査研究法基礎

熊谷 智博

熊谷智博・大淵憲一 監訳 (2012) 紛争と平和構築の社会心理学: 集団間の葛藤とその解決 北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

【Outline and objectives】

Students will learn introduction of social science, either form qualitative and quantitative approach.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査の知識を身につけることによって、社会で起こっていることについて単なる主観的判断ではなく、客観的なデータから問題を理解するスキルの修得を本講義の目的とします。また単にスキルを修得するだけでは無く、それを積極的に用いることで他人を説得したり、理解させたりと、コミュニケーションのツールとしても活用出来るようにすることも目的としています。

【到達目標】

授業においては、まず量的／質的な調査・分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになることをめざします。本講義での学びを通し、各自が関心を持つ研究対象について、具体的に研究としての形にするにはどうしたらよいか、量的／質的調査の方法を適用し、量的／質的な分析を行うという点から行えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業ですが、グループワークを取り入れる場合もあります。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。各テーマを深く掘り下げることを通して、量的／質的調査法についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概略・方法
第2回	社会調査とは	社会調査の概要を説明
第3回	社会調査の類型	統計的研究と事例研究、量的調査と質的調査
第4回	社会調査の実際	調査事例レビュー
第5回	調査と理論	調査と理論の結びつき
第6回	調査・研究のプロセス	概念、変数、仮説
第7回	調査の企画	調査票調査の種類、対象の設定
第8回	調査票の構成	ワーディングの問題、選択肢の作成
第9回	サンプリング	無作為抽出の原理と方法
第10回	データ分析	データ集計、相関関係、因果関係
第11回	インタビュー法	構造化面接、非構造化面接、半構造化面接
第12回	観察法	非参与観察、参与観察
第13回	ライフストーリー法	ライフストーリー・インタビュー
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象やテーマに関するアイデアを練り、それに関する資料の収集を少しずつ進めていってください。また調査法は授業で得た知識を積み上げていくことが必要となりますので、復習をしっかり行って次回の授業に臨んで下さい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書を減らし、レジユメを軸に講義を展開していきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。

<研究テーマ>

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近では集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

<主要研究業績>

熊谷智博 (2016). 第15章：集団間紛争とその解決および和解 大淵憲一監修 紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房 pp.192-203.

熊谷智博 (2014). 第9章：集団の中の個人、第10章：集団間関係、脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著 基礎からまなぶ社会心理学サイエンス社 pp.153-192.

熊谷智博 (2013). 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討 社会心理学研究, 29, 2. 86-93.

SOC5M1 - 1102

量的調査法

齋藤 嘉孝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的調査によって得られたローデータを分析するのに必要な知識や技能を学ぶ。

【到達目標】

量的調査によって得られたローデータを分析するには専門的な知識や技能が存在するが（例えば、T検定、クロス表、分散分析、相関係数、因子分析、回帰分析、等）、それらを使って量的分析ができるようになること。また、実際の二次分析データを用いることによって、統計ソフトの使い方を体得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

量的調査は、様々な研究を進めるうえで非常に有効な方法である。この授業では、春学期科目「キャリア調査研究法」で学んだことを発展させ、実際に統計ソフト（SPSSを予定）を履修者が操作すること等により、量的調査分析の手法を修得していく。また、修士論文の作成にむけて、履修者各自の調査デザインをもとに実践的分析を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期後半**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	量的調査の概要
2	データ入力①	統計ソフトへの入力方法
3	データ入力②	データクリーニング等
4	記述統計	平均・標準偏差等
5	統計分析①	平均の差の検定、T検定
6	統計分析②	クロス表
7	統計分析③	分散分析
8	統計分析④	相関係数
9	統計分析⑤	因子分析
10	統計分析⑥	回帰分析
11	統計分析⑦	重回帰分析等
12	統計分析⑧	ロジスティック回帰分析等
13	分析結果の報告①	履修者各自による分析結果の報告
14	分析結果の報告②	履修者各自による分析結果の報告およびディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・春学期科目「キャリア調査研究法基礎」を履修しておくこと。
・履修者は自らの関心に沿ったフィールド（量的調査の対象）を有しておくことが望ましい。
・毎回指示される課題を遂行すること（文献講読、データ分析、報告書執筆、等）。

【テキスト（教科書）】

『ワードマップ社会福祉調査』（齋藤嘉孝、2010年、新曜社）

【参考書】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出物 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

常に実践的な内容を心がけている。理論的なことだけでなく、修士論文に実際に使える知識・技能を会得してほしいと考えている。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学、社会調査、家族論

<研究テーマ>

家族（特に親子関係）やそれを取り巻く社会環境を人生スパンで対象とする実証的研究や、それに関連する諸政策・制度。

<主要研究業績>

『ワードマップ社会福祉調査』（2010年、新曜社）、『親になれない親たち』（2009年、新曜社）、"An Empirical Study of the Frequency of Intergenerational Contacts of Family Members in Japan," Journal of Intergenerational Relationships 7(1) (2009年、共著)

【Outline and objectives】

Learn knowledge and skills necessary for analyses of raw data that were collected by quantitative methods.

SOC5M1 - 1103

質的調査法

佐藤 恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを集集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにする事ができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、質的調査・質的分析の諸方法について学びます。

【到達目標】

授業においては、まず、質的調査・質的分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになることをめざします。

その上で、調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。本講義での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、質的な分析を行うことができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業ですが、グループワークを取り入れる場合もあります。

1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。

各テーマを深く掘り下げることを通して、質的調査法についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**秋学期前半**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
第2回	社会調査と社会認識、調査倫理（1）	社会科学における予言と観察の問題
第3回	社会調査と社会認識、調査倫理（2）	社会調査における倫理問題
第4回	インタビュー法（1）	構造化面接
第5回	インタビュー法（2）	非構造化面接、半構造化面接
第6回	インタビュー法（3）	インタビュー法実習
第7回	観察法（1）	統制的観察、非統制的観察（非参与観察）
第8回	観察法（2）	非統制的観察（参与観察）
第9回	ライフストーリー法	ライフストーリー・インタビュー
第10回	調査データの読解	調査データ読解上の注意
第11回	質的データの分析法（1）	KJ法
第12回	質的データの分析法（2）	グラウンデッド・セオリー・アプローチ
第13回	質的データの分析法（3）	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ
第14回	まとめ・総括	質的調査のメリット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象やテーマに関するアイデアを練り、それに関する資料の収集を少しずつ進めていってください。

もう一つ、準備学習として重要なことは、先に進むことばかりを考えるのではなく、1回1回の授業から質的調査に関する視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書を減らし、レジュメを軸に講義を展開していきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学（地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学、社会調査）。

<研究テーマ>

最近の研究テーマは、ボランティア/NPO、障害者支援、犯罪被害者支援です。

現在、阪神大震災・東日本大震災の被災障害者への支援（ボランティア／NPO）に関する調査、および、犯罪被害者への支援（支援センター／セルフヘルプ・グループ）に関する調査を行っています。

<主要研究業績>

①伊藤智樹（編著）、荒井浩道・福重清・水津嘉克・佐藤恵（共著）『ピア・サポートの社会学—A.L.S.、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』（晃洋書房）2013年

②佐藤恵『自立と支援の社会学—阪神大震災とボランティア』（東信堂）2010年

③崎山治男・伊藤智樹・佐藤恵・三井さよ（編著）『〈支援〉の社会学—現場に向き合う思考』（青弓社）2008年

【Outline and objectives】

Social Research refers to the process and methods of recognizing and understanding a social phenomenon by collecting data from the actual world and analyzing them.

Understanding of the social reality through social researches helps us see hitherto unnoticed matters and expand our knowledge.

Among various social research methods, this class focuses on “qualitative research,” which is independent of statistical calculations and figures, to cover various qualitative survey and analysis methods.

PSY5M1 - 1201

生涯発達心理学

岡田 昌毅

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。

【到達目標】

キャリア関連の諸理論・アプローチを実践場面に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリア心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用について個人またはグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方に関して説明する。
第2回	キャリア関連理論・アプローチ概説Ⅰ	本授業で取り扱うキャリア関連理論・アプローチについて概説する。
第3回	キャリア関連理論・アプローチ概説Ⅱ	同上。
第4回	キャリアインタビューⅠ	キャリアインタビューの準備と実施。
第5回	キャリアインタビューⅡ	同上。
第6回	キャリア概要把握Ⅰ	インタビュー結果に基づきライフラインを作成する。
第7回	追加インタビューⅠ	追加インタビューを実施する。
第8回	追加インタビューⅡ	同上。
第9回	キャリア概要把握Ⅱ	ライフラインを完成させ、キャリア概要把握を完了する。
第10回	職業選択と適性Ⅰ	ホランドに関する課題発表とディスカッション
第11回	職業選択と適性Ⅱ	【VPI 職業興味検査実習】
第12回	キャリア発達論	スーパーのキャリア自己概念、ライフキャリアレインボー、キャリア発達段階に関する課題発表とディスカッション
第13回	キャリア構築論	サピカスに関する課題発表とディスカッション
第14回	働く動機	マズローの欲求5段階説、その他モチベーション論に関する課題発表とディスカッション
第15回	組織内キャリア発達Ⅰ	シャインのキャリア・アンカー、組織の3次元モデル等に関する課題発表とディスカッション
第16回	組織内キャリア発達Ⅱ	【キャリア・アンカー診断実習】
第17回	キャリア・プラト	山本寛のキャリア・プラトに関する課題発表とディスカッション
第18回	キャリア意思決定における社会的学習理論	バンデューラのセルフエフィカシー、社会的学習理論およびホルホルツのキャリア意思決定、計画された偶発性に関する課題発表とディスカッション
第19回	キャリア意思決定	ジエラットの意思決定プロセスに関する課題発表とディスカッション
第20回	関係性アプローチ	ホルのアプローチ・キャリアに関する課題発表とディスカッション
第21回	統合的キャリア発達	ハンセンの統合的キャリア発達に関する課題発表とディスカッション
第22回	トランジション論 〔出来事の視点〕	シュロスバーグの出来事としての転機に関する課題発表とディスカッション
第23回	トランジション論 〔発達の視点〕	ブリッジズの発達段階としてのトランジションに関する課題発表とディスカッション
第24回	アイデンティティのらせん式発達モデル	エリクソン、マシヤ、岡本祐子に関する課題発表とディスカッション
第25回	キャリア・ストレスとワーク・ライフバランス	金井篤子の職務ストレス、キャリア・ストレス、ワーク・ライフバランスに関する課題発表とディスカッション
第26回	事例発表	個別にインタビューした事例にキャリア理論・アプローチを適用して発表する。
第27回	総合討論	あるテーマにキャリア理論・アプローチを適用し、グループ討議、および全体で共有する。
第28回	総括	授業を総括する。 (仕事、職業キャリア発達と心理・社会的発達に関する岡田のモデル他)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当箇所の発表準備。

【テキスト（教科書）】

渡辺三枝子編著 2007 「新版キャリアの心理学」 ナカニシヤ出版
岡田昌毅著 2013 「働くひとの心理学－働くこと、キャリアを発達させること、そして生涯発達すること－」 ナカニシヤ出版

【参考書】

その他 講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。

【成績評価の方法と基準】

2回のテーマ発表【必須】（80％）。

授業への貢献（20％）。

なお、担当テーマは授業の中で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

社会人大学院生のニーズに応えられるよう継続的に工夫をいたします。

【学生が準備すべき機器他】

ICレコーダーをお持ちの方は初回授業時に持参してください。

【その他の重要事項】

授業は6月初旬～8月初の日曜集中で実施します。

初回授業においてそれ以降の授業で必要となるキャリア・インタビューを実施しますので、必ず出席してください。

授業日程・時間帯等が変則的ですので、ご注意ください。

なお、授業内容や順番など一部変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

キャリア心理学、キャリア・カウンセリング

<研究テーマ>

・仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究

・キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ

<主要研究業績>

・岡田昌毅・金井篤子：仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とプロセスの検討－企業における成人発達に焦点をあてて－、産業・組織心理学研究, 20, 51-62, 2006

・堀内泰利・岡田昌毅：キャリア自律が組織コミットメントに与える影響。産業・組織心理学研究, 23, 15-28, 2009

・高橋南海子・岡田昌毅：就職活動による自己成長感の探索的検討、産業・組織心理学研究, 26, 121-138, 2013

・原恵子・小玉正博・岡田昌毅：中堅キャリア支援者における職業的発達プロセスに関する探索的研究、キャリアデザイン研究, 9, 49-63, 2013

・菊入みゆき・岡田昌毅：職場における同僚間の達成動機の伝播に関する研究、産業・組織心理学研究, 27, 101-116, 2014

・正木澄江・岡田昌毅：企業従業員の働くことの意味醸成プロセスに関する探索的検討、産業・組織心理学研究, 28, 43-57, 2014

・中村准子・岡田昌毅：企業で働く人の職業生活における心理的居場所感に関する研究、産業・組織心理学研究, 30, 3-16, 2016

【Outline and objectives】

In order for the career counselor to properly support the client, it is desirable to approach various issues and tasks of the client from various perspectives. By understanding career related theories and approaches broadly, understand their mutual relationships and differences, and acquire the foundation of application to practice.

PSY5M1 - 1202

教育心理学

田澤 実

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に【発達】【パーソナリティ・心理尺度】【学習理論】【認知・臨床】を学ぶ。これらは教育心理学の伝統的なテーマでもあり、キャリアとの関連性が深い特徴がある。

【到達目標】

自らの関心テーマについて「学び」という観点から再考し、学びを支援する立場になった際に、教育心理学の専門的な知識を踏まえた工夫ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と授業内での発表。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の内容について説明をする。
第2回	学習の適時性	発達と教育の関連について扱う。ヴィゴツキーの発達の最近接領域などを説明する。
第3回	生涯発達とアイデンティティ	人の一生を8つの段階に区分したエリクソンのアイデンティティについて説明する。
第4回	教育心理学における量的研究／質的研究	教育心理学に関連した量的研究や質的研究を読むときに必要な知識について説明する。
第5回	性格の測定	教育心理学に関連した研究でよく用いられている性格テストを体験する。
第6回	モチベーション	内発的動機づけ、外発的動機づけ等を扱う。
第7回	自己効力（1）	バンデューラの社会的学習理論について説明する。
第8回	自己効力（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第9回	キャリア意識の効果測定（1）	大学におけるキャリア意識の発達に関する効果測定テストの活用事例を扱う。
第10回	キャリア意識の効果測定（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第11回	時間的展望（1）	キャリアの概念には「時間」が含まれることがある。個人が過去を振り返ったり、将来を見通したりすることについて心理学的な見解を紹介する。
第12回	時間的展望（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第13回	学習と教授法	学習理論に基づいた指導法を扱う。
第14回	学習の転移	以前に学んだことが、次に学ぶ際にどのような影響を及ぼすのかについて扱う。
第15回	ワークショップによる学び（1）	ワークショップを理解するための学習理論を紹介する。
第16回	ワークショップによる学び（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第17回	レポート構想発表	受講者による発表。自らの関心テーマについて「学び」という観点からまとめる。質疑応答を行い、今後の方針を考える。
第18回	経験学習（1）	Kolbの経験学習を扱う。
第19回	経験学習（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第20回	記憶のメカニズム	人間が記憶をする際に、どのようなプロセスを辿るのかを紹介する。
第21回	発達障害（1）	発達障害の種類や特徴について理解する。学びや就労の場面においてどのような困難が生じやすいのか説明する。
第22回	発達障害（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第23回	ひきこもり・ニート支援	ひきこもり状態およびニート状態の若者の心理状態と支援枠組を紹介する。
第24回	若者支援（1）	包括的な若者支援を紹介する。支援が必要な若者の心理状態について説明する。

第 25 回	若者支援 (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 26 回	レポート進捗発表 (1)	各自、中間発表での指摘を受けて、レポートの完成を目指して最後の発表をする。
第 27 回	レポート進捗発表 (2)	レポートの完成を目指して最後の発表をする。質疑応答を踏まえて、レポートの構成の方向性を固める。
第 28 回	レポートのフィードバック	最終レポートの返却と解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連文献を事前に配布する。受講生にレジュメ発表を求める回もある。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

梅崎修・田澤実 2013 『大学生の「学び」とキャリア』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 40 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、受講者に進行案を示し、意見を交わして、進め方の調整をしていく。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

受講者の人数によって、シラバスは変更することがある（「レポート作成に向けて」の回数およびタイミングなど）。また、受講者の関心にあわせて、扱う関連論文を変更することもある。初回の授業でその調整の仕方について説明する。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/22/0002181/profile.html>

【Outline and objectives】

This course introduces the characteristics of mental and physical development and basic knowledge on learning theory to students taking this course.

PSY5M1 - 1203

産業・組織心理学

坂爪 洋美

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業・組織心理学は、人々が働くことを通じて経験する現象を心理学的視点から理解しようとする学問領域です。例えば「こんな（低い）評価をあんな上司がつけたのかと思うとやる気にならない」という私達がどこかで経験する現象は、公平性・リーダーシップ・モチベーションといった概念で説明することができます。本授業では、このような産業・組織心理学の主要な概念について理解することを目的とします。授業では、人を人材として活用しようとする組織（主として企業）の観点と、より良く働こうとする個人（何を「良い」と考えるかは多岐に渡ります）の観点双方を意識し、各トピックについてレクチャーならびに議論していきます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ① 授業計画の部分で提示する産業・組織心理学の主要な概念を用いて、職場でおきている様々な現象を説明できるようになること
- ② 産業・組織心理学の主要な概念をもちいた心理学系の論文を読みこなすことができるようになること
- ③ 修士論文作成を視野に入れた上で、産業・組織心理学の主要な概念をもちいて、自ら仮説の提示をできるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、各回に取り上げるトピックについて、理論の概説を行った上で、事前に指定した文献について受講生から報告・ディスカッションを行うという方法で進めます。授業は 14 週（2 限続きで合計 28 回）で実施します。なお、授業内容ならびに進め方については、受講者の状況に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション①	授業の内容ならびに進め方を紹介する。
第 2 回	授業オリエンテーション②	心理学というパースペクティブに基づく物事の捉え方について説明した上で、受講生の問題意識をお互いに紹介する。
第 3 回	モチベーション①	モチベーションの基本的な理論についてレクチャーする。
第 4 回	モチベーション②	モチベーションの関連文献についてディスカッションを行う。
第 5 回	リーダーシップ①	リーダーシップの基本的な理論についてレクチャーする。
第 6 回	リーダーシップ②	リーダーシップの関連文献について読み、ディスカッションを行う。
第 7 回	公平性①	評価をめぐって議論となる公平性についてレクチャーする。
第 8 回	公平性②	公平性の関連文献について読み、ディスカッションを行う。
第 9 回	職場の力①	個人と組織の中間に位置する職場について、レクチャーを行う。
第 10 回	職場の力②	職場に関する文献を元にディスカッションを行う。
第 11 回	経験学習①	能力開発の中心となる仕事経験について、レクチャーを行う。
第 12 回	経験学習②	能力開発の関連文献を元にディスカッションを行う。
第 13 回	キャリアの主要概念①	キャリアの主要な概念について概観する。
第 14 回	キャリアの主要概念②	キャリアの主要文献を読み、ディスカッションを行う。
第 15 回	キャリアの転機①	キャリアの転機の 1 つである転職ならびに失業についてレクチャーを行う。
第 16 回	キャリアの転機②	転職ならびに失業についての心理学的観点からの論文を読み、ディスカッションを行う。
第 17 回	組織コミットメント①	組織と個人の関係性を示す概念である組織コミットメントについてレクチャーする。
第 18 回	組織コミットメント②	組織コミットメントに関連文献を読み、ディスカッションを行う。

第 19 回	心理的契約①	組織と個人の関係性を示す概念である心理的契約についてレクチャーする。
第 20 回	心理的契約②	組織と個人の関係性を示す概念である心理的契約の関連文献を読みディスカッションを行う。
第 21 回	働きがいと働きやすさ①	学問的には定義が曖昧であるが、近年取り上げられることの多い2つの概念の関連文献について講義を行う。
第 22 回	働きがいと働きやすさ②	働きがい・働きやすさの関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第 23 回	ワーク・ライフ・バランス①	ワーク・ライフ・バランスの現状と課題について、レクチャーを行う。
第 24 回	ワーク・ライフ・バランス②	ワーク・ライフ・バランスの現状と課題について、心理学的観点からの論文を読みディスカッションを行う。
第 25 回	ダイバーシティ：女性活用①	女性活用の現状と課題についてレクチャーする。
第 26 回	ダイバーシティ：女性活用②	女性活用の現状と課題について、心理学的観点からの論文を読みディスカッションを行う。
第 27 回	職場のメンタルヘルス①	ストレスを含めたメンタルヘルスの現状についての講義を行う。
第 28 回	職場のメンタルヘルス②	ストレスを含めたメンタルヘルスとその対応に関する論文を読みディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献（英語文献を含む場合があります）については、受講者全員が事前に読んだ上で出席することを求めます。また、指定文献のレジュメ作成を受講者で分担します。これとは別にレポート提出を求めます（レポートの内容については初回の授業で説明します）。

【テキスト（教科書）】

指定しません

【参考書】

授業内で適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 30 %：ディスカッションへの参加状況も含めて評価します。ディスカッションでは他の受講生の理解をふかめるような質問や建設的な質問をすることが望まれます。
- 報告 30 %：レジュメの準備、質問への対応などで評価します。
- レポート 40 %：

【学生の意見等からの気づき】

指定文献ならびに課題の難易度に幅を持たせることで、様々な学生のニーズに対応できるようにします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
産業・組織心理学 人材マネジメント
<研究テーマ>
ダイバーシティ・マネジメント ならびに ワーク・ライフ・バランス
<主要研究業績>
坂爪洋美 (2016)「大学生の組織選好度の推移：2004 年から 2016 年までの変化」生涯学習とキャリアデザイン, 3-19.
坂爪洋美 (2015)「管理職がいたく育児を理由とした短時間勤務制度利用者のキャリア展望：その影響と規定要因の検討」生涯学習とキャリアデザイン, 61-76.
坂爪洋美 (2014)「大学生のキャリア・オリエンテーションの変化：2004 年～2012 年のデータをういた分析」和光大学現代人間学部紀要, 7, 195-214.
坂爪洋美 (2014)「職業紹介担当者の能力ならびにスキル：ハイ・パフォーマンスの特徴を明らかにする」『人材サービス産業の新しい役割』, 有斐閣.
坂爪洋美 (2012)「多様な人材の活躍を可能にするワーク・ライフ・バランス」『<先取り志向>の組織心理学』, 有斐閣

【Outline and objectives】

This course will provide an Introduction to Industrial and Organizational Psychology, a scientific discipline that studies human behavior in the workplace. The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of Industrial and Organizational Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of Industrial and Organizational psychology.

キャリアカウンセリング論

廣川 進

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの理論の理解とキャリアカウンセリングによるキャリア開発、キャリア形成支援のありかたを具体的に事例を交えて深く学ぶ

【到達目標】

キャリアカウンセリングに求められるカウンセリングの基本的理解、心理学による人間行動の基本的理解、キャリアカウンセリングの機能とその役割の理解を適正に理解し、それぞれ必要とされる場面において適切なクライアント理解とその支援ができる力を理論的、技能的にも身に付けることを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

キャリアカウンセリングの理論的理解を基礎として、その応用となる事例の理解を合わせて行ないながら、実践的な側面からもキャリアカウンセリングを理解する。講義とそれに関する課題の討議、また、講義にそって、キャリアカウンセリングの事例の検討、討議を行ない、実践的事例を通して、実践的な力も合わせてつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1.	キャリアカウンセリングとは何か。その定義と機能、役割。	現代社会で求められるキャリアカウンセリングのニーズに適正に答えることができるためには、キャリアカウンセリング、キャリアカウンセラーはどうあるべきか。その定義と役割・機能について学ぶ
2.	1、のテーマに関して討議を行なう。	現在のキャリアカウンセリングの課題、キャリアコンサルタント資格の課題、あるべき姿などについて討議する。キャリアカウンセリングを具体的に学ぶ前に、カウンセリングとは何かについて、主要なカウンセリング理論を通して学ぶ①
3.	カウンセリングとは何か、その機能と役割①	キャリアカウンセリングの基礎理論をもとに事例検討を行なう①
4.	3のテーマに関して討議を行う①	キャリアカウンセリングを具体的に学ぶ前に、カウンセリングとは何かについて、主要なカウンセリング理論を通して学ぶ②
5.	カウンセリングとは何か、その機能と役割②	カウンセリングの基礎理論をもとに事例検討を行なう②
6.	5のテーマに関して討議を行う②	クライアントの行動を理解するためには、基本的な心理学の理論を理解する必要があるが、行動科学としての心理学を学ぶ①
7.	人間行動の理解と基礎心理学①	心理学の基礎理論を基に、キャリアカウンセリングにおけるクライアント理解について討議する
8.	7のテーマに関して討議を行う②	クライアントの行動を理解するためには、基本的な心理学の理論を理解する必要があるが、行動科学としての心理学を学ぶ②
9.	人間行動の理解と基礎心理学②	心理学の基礎理論を基に、キャリアカウンセリングにおけるクライアント理解について討議する
10.	9のテーマに関して討議を行う②	キャリアカウンセリングの背後にある、キャリア心理学、キャリアカウンセリングの理論について学ぶ①
11.	キャリアカウンセリング理論①	キャリア心理学、キャリアカウンセリング理論に基づく事例研究を行なう①
12.	11のテーマに関して討議を行なう①	キャリア心理学、キャリアカウンセリングの背後にある、キャリア心理学、キャリアカウンセリングの理論について学ぶ②
13.	キャリアカウンセリング理論②	キャリア心理学、キャリアカウンセリング理論に基づく事例研究を行なう②
14.	12のテーマに関して討議を行なう②	人間の発達ステージと発達課題、キャリア発達の支援としてのキャリアカウンセリングを発達と関係付けて学ぶ
15.	生涯発達とキャリアカウンセリング	発達ステージによるキャリア支援の違いとキャリアカウンセリングの事例検討を行なう
16.	15のテーマに関して討議を行なう	

17	組織・企業におけるキャリアカウンセリング、キャリア支援のありかた	組織・企業において、従業員のキャリア開発、キャリア形成の支援としてキャリアカウンセリングの役割と機能、キャリア相談室について学ぶ
18	17のテーマに関する討議を行なう	企業。組織におけるキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げ、討議し事例検討する
19	学校におけるキャリア支援とキャリアカウンセリング	キャリア教育とキャリアカウンセリング、就職支援とキャリアカウンセリングなど学校におけるキャリアカウンセリングを学ぶ
20	19のテーマに関する討議を行なう	学校場面ではキャリアカウンセリングはどのような役割を果たすか、事例検討を行なう
21	キャリアとメンタルヘルス	キャリアとメンタルヘルス不調は大きな関係性があるが、復職とキャリア再形成、職場適応など、メンタルヘルス不調者の支援について学ぶ
22	21のテーマに関して討議を行なう	メンタルヘルス不調者のキャリアの事例検討を行い、メンタルヘルス不調者の支援のありかたを討議する
23	障害者のキャリア支援とキャリアカウンセリング	発達障害とは何か、発達障害者のキャリア支援とキャリアカウンセリングの役割、特例子会社などについて学ぶ
24	23のテーマに関する討議を行なう	発達障害者のキャリア支援について、事例検討を行ない障害者支援について討議する
25	女性のキャリア支援とキャリアカウンセリング	女性のキャリア開発、キャリア形成の課題とキャリアカウンセリングによる支援について学ぶ
26	25のテーマに関して討議を行なう	女性のキャリア支援のためのキャリアカウンセリングのあり方、事例検討を行なう
27	キャリアカウンセリングの統合的アプローチ-①	多様なキャリア理論、カウンセリング理論を統合したアプローチ方について学ぶ-①
28	27のテーマに関して討議を行なう-①	多様なキャリアカウンセリングを理論を統合した事例検討を行なう-①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なキャリアカウンセリングの具体的な事例を収集して、事例検討の場に活用できるように準備をする（個人情報のとりに扱いに注意）

【テキスト（教科書）】

「新版キャリアの心理学 キャリア支援への発達のアプローチ」 渡辺三枝子（ナカニシヤ出版）
「キャリアを超えて ワーキング心理学 働くことへの心理学的アプローチ」 DL プルステイン（白桃書房）
受講生と相談して決めます

【参考書】

「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」（労働政策研究・研修機構）
「キャリアカウンセリング」宮城まり子駿河台出版社
授業中に適宜文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

討論への参加状況（30%）
提出課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【担当教員の専門分野等】

臨床心理学、生涯発達心理学、キャリア心理学とキャリアカウンセリング
産業心理学を専門とする

【Outline and objectives】

We study the theory of career counseling and career development. We can practically learn through case studies

SOC5M1 - 1205

コミュニティとキャリア

田中 研之輔、安田 節之

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コミュニティとキャリアに関する①理論的視座を多面的・経験的に習得した上で、②実践的視座を組織エスノグラフィーとプログラム評価の観点から理解し、調査・研究のデザインの方法を学びます。

前半の第1回～第14回（担当：田中）では、コミュニティを考える上で重要な視点となる「(社会・物質)空間」と「(社会)集団」への見識を深め、この空間的視座と集団論的視座を交錯させながら、組織エスノグラフィーの視点から実践的に検討します。

また後半の第15回から第28回（担当：安田）では、前半の講義を踏まえ、企業組織・教育機関・地域コミュニティで実施されるキャリア支援や人材育成・組織開発をプログラムの視点から構造化し、その効果や成果をデータに基づいて構造化し、その効果や成果をデータに基づいて評価し、活動の質向上につなげるための方法論であるプログラム評価について学びます。

【到達目標】

①コミュニティとキャリアに関する理論的視座の包括的理解と具体的事例の洞察的分析をできるようにする。

②コミュニティとキャリアに関する実践的視座を『組織エスノグラフィー』と『プログラム評価』の観点から理解し、実践研究の設計・デザインを行うことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、各回において、「理論」と「経験的事例」とを相互に行き来しながら検討を進めていきます。各回ともに、前半は理論的視座および実践的視座について解説を加えていきます。後半は、前半の講義を基に、コミュニティとキャリアに関する具体的な問題をとりあげ、ディスカッション形式を適宜取り入れながら理解を深めていきます。受講生は課題論文を読み込み、議論に積極的に参加して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	組織エスノグラフィーにおけるコミュニティとキャリア：	組織エスノグラフィーという手法を用いてコミュニティとキャリアを考察する理論的視座の導入的理解をすすめる。
第2回	組織エスノグラフィーの学問的系譜	組織エスノグラフィーの学問的系譜を整理する。
第3回	組織エスノグラフィーの集団分析	組織エスノグラフィーの集団分析について見識を深める。
第4回	組織エスノグラフィーの空間分析	組織エスノグラフィーの空間分析について見識を深める。
第5回	組織エスノグラフィーのキャリア分析	組織エスノグラフィーのキャリア分析について見識を深める
第6回	組織エスノグラフィーの関係分析	組織エスノグラフィーの関係分析について見識を深める
第7回	組織エスノグラフィーの方法論	組織エスノグラフィーの方法論を習得する。
第8回	組織エスノグラフィーの読み方	組織エスノグラフィーの読み方を習得する。
第9回	組織エスノグラフィーの書き方	組織エスノグラフィーの書き方を学ぶ
第10回	組織エスノグラフィーの記述分析	組織エスノグラフィーの記述を分析する
第11回	組織エスノグラフィーの構造化	組織エスノグラフィーの構造化を学ぶ
第12回	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方について理解する。
第13回	組織エスノグラフィーの伝え方	組織エスノグラフィーの伝え方について理解する。
第14回	組織エスノグラフィーの報告会	組織エスノグラフィーの研究構想について検討を行う
第15回	コミュニティとキャリアに関する実践的導入①	コミュニティとキャリアに関しての実践的導入①
第16回	コミュニティとキャリアに関する実践的導入②	コミュニティとキャリアに関する実践的導入②
第17回	プログラム評価とは	ライフキャリア支援を目的とした「プログラム」を「評価」することの意義をプログラム評価の定義から学ぶ。

第 18 回	評価の目的と評価者の役割	プログラム評価の目的および評価者・ステークホルダーの役割について検討する。
第 19 回	ニーズアセスメント	支援を受ける側である利用者（クライアント）のニーズの分類とニーズアセスメントの種類について検討する。
第 20 回	問題分析	プログラムが必要となる社会的背景（問題・課題）の分析を行う。
第 21 回	ゴールの可視化	活動方針やゴールを可視化する方法を学ぶ。
第 22 回	ロジックモデルの開発①	プログラムの流れを可視化するためのツールであるロジックモデルの原案を作成する。
第 23 回	ロジックモデルの開発②	ロジックモデルを完成させる。
第 24 回	評価クエスチョン	評価の実施を想定した評価クエスチョンを設定する。
第 25 回	評価可能性アセスメント	実際に評価が可能か否かを査定する評価可能性アセスメントについて学ぶ。
第 26 回	プロセス評価	プログラムの流れ（プロセス）を評価する方法を学ぶ。
第 27 回	アウトカム評価①	アウトカム指標の検討を行う。
第 28 回	アウトカム評価②	主にフィールドでの実験・準実験デザインによるアウトカム評価の概要を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、授業支援システムやオンラインツールを用いて、各回の課題論文を共有していきます。各回の課題論文を読み込み、各自の論点メモを準備してください。また、授業内で課題として残った疑問や授業後にあらためて抱いた疑問や論点等についても、授業支援システム等で議論を重ねていきます。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔・山本和輝 2019 『辞める研修 辞めない研修—新人育成の組織エスノグラフィー』（ハーベスト社）

安田節之 2011 『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために』（新曜社）

*その他、必要となる課題論文は PDF 版にして事前に配布します。

【参考書】

田中研之輔 2015 『井家の経営— 24 時間営業の組織エスノグラフィー』（法律文化社）

田中研之輔・山崎正枝 2016 『走らないトヨタネットワーク南国の組織エスノグラフィー』（法律文化社）

安田節之・渡辺直登 2008 『プログラム評価研究の方法』（新曜社）

コミュニティ心理学会研究委員会 2019 『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）』（新曜社）

講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題への取り組みや講義への参加姿勢）50%+課題レポートの総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する補足文献を適宜、update していく。

【担当教員の専門分野等】

田中研之輔

<専門領域>

ライフキャリア論・社会学

<研究テーマ>

組織エスノグラフィー・プロティアン キャリア論

<主要研究業績>

『覚醒せよ、わが身体—トライアスリートのエスノグラフィー』（2018）ハーベスト社

『走らないトヨタネットワーク南国の組織エスノグラフィー』（2016）法律文化社

『井家の経営— 24 時間営業の組織エスノグラフィー』（2015）法律文化社

* その他 → <http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/21/0002083/profile.html>

【担当教員の専門分野等】

■ 安田節之

<専門領域>

プログラム評価論、コミュニティ心理学

<研究テーマ>

対人・コミュニティ援助の評価研究およびコンサルテーション研究、超高齢社会におけるライフキャリア研究、ベストプラクティス・アプローチに基づく評価研究など

<主要研究業績>

① 『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）』（安田節之、2011 年、新曜社）

② 『プログラム評価研究』（安田節之・渡辺直登、2008、新曜社）

③ 『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）』（日本コミュニティ心理学会研究委員会、2019 年、新曜社）

【Outline and objectives】

The first half of this course aims to provide a “how to” of organizational ethnographic research and, in the process, examine the epistemology, conduct, and power relations of fieldwork. Organizational ethnography is useful in a wide range of settings for research questions that seek to explore the meanings to situational actors of particular practices, concepts or processes.

In the second half of the class, students will learn how a variety of issues and problems that are pertinent to one's career in the industrial/educational organizations and local communities can be addressed in research studies. In particular, we focus attention on theories and methods of program evaluation (PE). PE is a systematic approach that helps researchers/practitioners to identify critical issues and structures for understanding and improving programs. Special attentions will be placed on learning how one can measure processes and effectiveness of the programs that are of interest to each student.

EDU5M1 - 1301

キャリアガイダンス論

児美川 孝一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、キャリアガイダンスを「キャリア支援・教育」とほぼ同義のものとして広く解する。そのうえで、キャリアガイダンスの制度・システムや政策にかかわる諸問題を踏まえつつ、より実践に近い支援現場における課題について、理論的に検討することをねらいとする。

支援場面における問題や課題の背景には、当然、社会構造や労働市場の動態、企業の雇用方針、政策動向といった問題が存在しているので、本来、両者を切り離すことはできない。

【到達目標】

受講者が、①さまざまな場におけるキャリアガイダンスの諸課題について、社会的背景と現場の問題とを往還しながら理解できるようになること、②そのうえで、問題解決への見通しを展望できるようになることが、本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業において、主として検討の対象とするのは、①学校（専門学校や大学を含む）におけるキャリア支援・教育、および②コミュニティにおける若年キャリア支援である。

必要に応じて、キャリアガイダンスにかかわる理論や実態調査の報告書の検討、諸外国で行われているキャリアガイダンス施策の事例紹介なども行う。授業の方法としては、①教員によるレクチャー、②報告者によるレポート発表（文献発表、個人報告）、③受講者によるディスカッションの組み合わせを基本とする。中心となるのは、②と③である。

キャリア支援の現場にいる実践者をゲストにお呼びしてディスカッションすることも検討したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス①	授業の内容・方法・進め方について説明する。
第2回	授業ガイダンス②	「キャリアガイダンス」をどう把握するかについて、講義とディスカッションを行う。
第3回	キャリア教育とキャリア教育政策①	キャリア教育の捉え方、および日本における政策展開について講義する。
第4回	キャリア教育とキャリア教育政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第5回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）①	学校で行われている職場体験・インターンシップについて講義する。
第6回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）②	レポート発表、全体でのディスカッションを行う。
第7回	学校におけるキャリア教育（進路指導）①	学校における進路指導について、講義する。
第8回	学校におけるキャリア教育（進路指導）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第9回	学校におけるキャリア教育（教科）①	教科教育を通じたキャリア教育について、講義する。
第10回	学校におけるキャリア教育（教科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第11回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）①	高校普通科におけるキャリア教育の現状と課題について講義する。
第12回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第13回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）①	学校で行われるキャリアカウンセリングについて講義する。
第14回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第15回	諸外国におけるキャリア教育①	諸外国におけるキャリア教育について講義する。
第16回	諸外国におけるキャリア教育②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第17回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）①	大学で実施されているキャリア教育科目について講義する。

第18回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第19回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）①	大学生の就職活動、および大学におけるその支援の現状について講義する。
第20回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第21回	若年支援と若年支援政策①	若年支援の捉え方、および諸外国と日本における若年支援策について講義する。
第22回	若年支援と若年支援政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第23回	ジョブカフェにおけるキャリア支援①	ジョブカフェにおけるキャリア支援の実態と課題について講義する。
第24回	ジョブカフェにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第25回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援①	若者サポートステーションにおけるキャリア支援の現状と課題について講義する。
第26回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第27回	高校・大学中退者に対するキャリア支援①	高校・大学中退者に対するキャリア支援の課題について講義する。
第28回	高校・大学中退者に対するキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される指定文献を読み込み、疑問点や評価できる点等を精査していただくこと。

文献発表および個人報告に際しては、入念な準備を行い、授業時に報告する前に、担当教員からの指導を受けること。

【テキスト（教科書）】

特に定めなし。

【参考書】

授業時に、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、①平常点（ディスカッションへの参加等）30%、②授業内で発表するレポート30%、③適宜、提出を求めるレポート課題40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

より双方向的な授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によって、パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

授業に関連したディスカッションや情報交換を促す目的で、SNS等のソーシャルネットワークを活用する。（具体的には、Facebookを予定）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 教育学

<研究テーマ> キャリア教育、青年期教育

<主要研究業績>

- ①『若者とアイデンティティ』（法政大学出版局、2005年）
- ②『権利としてのキャリア教育』（明石書店、2006年）
- ③『若者はなぜ「就職」できないのか』（日本図書センター、2011年）
- ④『これが論点！就職問題』（編著、日本図書センター、2012年）
- ⑤『「親活」の非ススめ』（徳間書店、2013年）
- ⑥『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書、2013年）
- ⑦『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エディタス、2015年）
- ⑧『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書、2016年）

【Outline and objectives】

This course introduces the concept, theories, policies and methods of career guidance, and discuss about examples of practice in Japan.

教育経営論

高野 良一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、「教育経営イノベーションの考え方を学ぶ」です。取り上げるトピックは、大学を含む学校組織・経営管理ですが、これを分析する道具や考え方は、教育学を始め組織科学や経営学、社会学の蓄積を用います。今年度は、大学（法政大学を含む）や学部（キャリアデザイン学部を含む）の組織・経営革新論、それに専門職論や越境的な学び論も、新たに取り上げて考えたいと思います。

【到達目標】

この授業では、「(修論を)書くために読む」というアカデミック・スキルの習熟が目標となります。論文を読み解きレジメを作成し、それを基にプレゼンテーションして議論するというアクティブラーニングの体得です。それは同時に、各回のテーマに即した論考や論文を通して、学問的・専門的な知識やコンセプト、発想法や考え方を理解し習得することにもなります。そして、自らの現場とそれらの学問・専門知との接点を探り、自らの研究課題に新たな光を当てたり、課題を深めたりすることにもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は「反転学習」を基本とします。事前に講読文献の趣旨説明と指定を行い、講義では各自のレジメ発表と全員での議論をおこないます。もちろん、最初は講義形式も採用して、順次「反転学習」に移行します。また、2時間連続授業ですから、前半は各自のレジメの発表と質疑応答、後半は議論という展開になります。

なお、授業内容は授業計画に示したとおりですが、受講生の関心や問題意識を加味して、テーマや教材は追加されたり変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	教育経営イノベーションへの招待	授業のねらいや内容をオリエンテーションし、受講者の問題関心を交流する
第2回	教育経営イノベーションへの招待（続）	「一人称研究」や「二人称研究」とは何かを考えながら、受講者の研究テーマを交流する
第3回	イノベーションの考え方と類型	クリステンセンのイノベーション論に学ぶ
第4回	イノベーションの考え方と類型（続）	イノベーションの考え方と2類型を考える
第5回	学校法人の日米比較	アメリカの学校法人イノベーションを知る
第6回	学校法人の日米比較（続）	日本の学校法人イノベーションを考える
第7回	カリキュラム・イノベーション	アメリカのカリキュラム教育事例を学ぶ
第8回	カリキュラム・イノベーション	大学のキャリア教育カリキュラムを考える
第9回	チームマネジメント	「チーム学校」と同僚性を学ぶ
第10回	チームマネジメント（続）	チームと同僚（「批判的な友」）を見直す
第11回	学校組織文化	組織文化論の基本（E. シャイン）を学ぶ
第12回	学校組織文化（続）	学校文化を再考する
第13回	中間レポート発表	各自の関心テーマを発表する
第14回	中間レポート発表（続）	テーマを交流し、前半授業の振り返る
第15回	教育のソーシャル・キャピタル	教育の社会関係資本論を学ぶ
第16回	教育のソーシャル・キャピタル（続）	教育の信頼とネットワークを再考する
第17回	教育のリーダーシップ	リーダーシップの基本を学ぶ
第18回	教育のリーダーシップ（続）	教育のリーダーシップを考える
第19回	専門職としての教職員	現代教職の専門職化論を学ぶ
第20回	専門職としての教職員（続）	教育専門職の特性を考える
第21回	教員のコンピテンシー	教育の資質能力論を理解する
第22回	教員のコンピテンシー（続）	教員のコンピテンシー評価を考える
第23回	学校の組織学習・越境的学習	組織学習論の基本を学ぶ

第24回 学校の組織学習・越境的学習（続） 組織学習を考え、交流する

第25回 教職員の越境的な学び 越境的な学び論（越境的学習論）を学ぶ

第26回 教職員の越境的な学び（続） 越境的な学びを考え、交流する

第27回 修了レポート発表 本授業の修了レポートを発表する

第28回 修了レポート発表（続） 個人発表、意見交換をし、講義を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前週までに配布された論考や論文を読み、レジメを作成することが予習です。また、各自が立てたテーマに即した中間発表と修了発表に向けた事前準備も必要になります。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。本授業は「反転授業」のスタイルを採用するので、前週までに事前学習すべき教材はメールで配布します。

【参考書】

- ①クレイトン・クリステンセン『教育x破壊的イノベーション』翔泳社
- ②金井壽弘・高橋潔『組織行動の考え方』日本経済新聞社
- ③香川秀太他編『越境する対話と学び』新曜社
- ④松尾陸『成長する管理職』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

レジメ作成とプレゼンテーションが40%、中間レポート発表と修了レポートの発表・提出が60%を目安にします。中間レポートは、問題意識や先行研究の咀嚼を重視します。修了レポートは、中間レポートを発展させるだけでなく、論理性や説得力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「書くために読む」という知的トレーニングは最初はきついようですが、良い経験になったという意見もありました。また、「反転授業」の中で、受講者の現場や問題意識と学問知を繋ぐ対話にこれまで同様に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>教育行政・経営学（educational management and administration）

<研究テーマ>教育イノベーションの日米比較、教育のソーシャルキャピタル、教職の専門職化

<主要業績>

- ①「もう一つのシカゴ大学実験学校としてのNKO」『キャリアデザイン学部紀要』2019
- ②「現代教職論を読み解く」『教職課程年報』16, 2018
- ③「義務教育機会確保法「市民立法」の可能性の中心」『日本教育政策学会年報2016』
- ④「社会関係資本のエートス論」『教育社会学研究』94, 2014
- ⑤（共著）『地域教育の構想』同時代社、2010

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the theories and views on the innovations in educational management. The topics are as follows; school and university restructuring, curriculum innovation, team management, leadership, professionalism and organizational learning.

EDU5M1 - 1303

キャリア教育論

上西 充子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の学校から職業への移行の困難、さらに若年労働者の働かせ方の劣悪さが社会問題化する中で、キャリア教育の在り方が改めて問われてきている。本授業では、若者をめぐる今日の社会状況と政策としてのキャリア教育を照らし合わせ、キャリア教育・キャリア支援が行うべきことは何であるのかを、一歩引いた視点から改めて問い返す。

【到達目標】

受講者一人一人が、それぞれの現場におけるキャリア教育・キャリア支援の抱える課題を認識し、キャリア教育・キャリア支援の枠組みを再考し、再構築できる。

修士論文作成に向けて、文献を的確に読み取った上で自らの論点を論述の中で展開できるようにする。

データの出所を確認してデータを的確に理解し、活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、テーマごとにあらかじめ関連する文献を読み、レジュメの作成と論点の提示をもとにディスカッションを行う。また、文献の内容を踏まえた論述の練習を適宜行い、論述の方法を実践的に習得する。データの出所を確認し、データの批判的検討も行う。受講者の実践現場の事例の報告と検討なども取り混ぜて行いたい。

テーマとしては下記の授業計画の内容を考えているが、受講者の方々の問題関心に依って多少の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	自己紹介と問題意識の共有／授業計画の説明／文献の種類と主要文献紹介
第2回	学術的な論述の基礎	事実と意見を書き分ける／出典の明示と紹介文／根拠を示した論述
第3回	紹介文課題の検討	紹介文課題の検討を通じ、論述の形式を学ぶ
第4回	論点を取り出し、考える	論点を取り出して論じる／説得力のある論述を行う
第5回	アルバイト就労を考える	アルバイト就労をめぐる論点についての論述を行い、検討する
第6回	ワークルール教育の推進に向けて	大学生をめぐる労働トラブルとワークルール教育の課題
第7回	若者「使い捨て」問題を考える	若者「使い捨て」企業の現状と労働問題
第8回	若者をめぐる労働問題とキャリア教育	初期キャリアにおける困難とキャリア教育の課題
第9回	政策としてのキャリア教育の経緯	キャリア教育施策の展開と背景
第10回	政策としてのキャリア教育の課題	キャリア教育施策の概要と問題点
第11回	メンバーシップ型雇用の特徴	メンバーシップ型雇用としての日本型雇用
第12回	メンバーシップ型雇用の問題とジョブ型雇用	メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の比較検討
第13回	メンバーシップ型雇用に向けたキャリア教育	メンバーシップ型雇用と現状のキャリア教育の整合性
第14回	メンバーシップ型雇用の課題とキャリア教育の課題	メンバーシップ型雇用の課題に照らしたキャリア教育の再考
第15回	困難を抱えた若者への視点	採用側の視点と支援者としての視点
第16回	若者労働市場の現状と課題	若年労働市場の現状と困難を抱えた若者の課題
第17回	誰が自立の困難に直面しているのか	若者が置かれた困難の多面性
第18回	多様な若者への支援	若者自立支援の多面性の把握と検討
第19回	女性のキャリアの現状	女性のキャリア展望とキャリアの現在
第20回	女性のキャリアの課題	女性のキャリアの課題とキャリア支援
第21回	職業教育とキャリア教育	職業教育とキャリア教育の関係
第22回	職業教育再考	ジョブ型雇用と職業教育
第23回	大卒就職の現状	大学生の就職・採用活動の現状
第24回	大卒就職とキャリア教育	大卒就職の現状と課題に対応したキャリア教育の検討

第25回	雇用形態の多様化の現状	若年労働市場における雇用形態の多様化の現状
第26回	雇用形態の多様化とキャリア教育	雇用形態の多様化に対応したキャリア教育の検討
第27回	総合的なキャリア教育・キャリア支援	キャリア教育・キャリア支援の担い手と取り組むべき課題
第28回	キャリア教育再考	授業全体を振り返り、みずからの考察を文章化して発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題文献を読み、データの出典を確認し、データの適切な利用を検討する。レジュメや論説文、レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

各回のテーマにかかわる文献は授業の中で指定・紹介する。さしあたり以下を挙げておく。

・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会

・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣

・児美川孝一郎（2013）『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす』中公新書ラクレ

・本田由紀（2009）『教育の職業的意義－若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書

・乾彰夫・本田由紀・中村高康（2017）『危機のなかの若者たち』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

出席と討論への参加：20%（積極性と共に討論内容に沿った的確性を評価する）／レジュメの作成と論点提示：30%（的確な整理と的確な論点提示を評価）／論説文・レポートの作成50%（文献の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、文章の明確さ、論理構成の的確さを評価）

【学生の意見等からの気づき】

「自分の従来の見方が覆され視野が広がった」「就労の場でどのようなことが課題となっているか、最新の論点が提示された」「レポートの添削がありがたかった」という意見があった。現在の若者が置かれている状況と抱えている課題から各自がキャリア教育を問い直す機会としたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>労働問題、キャリア教育、社会政策、職業能力開発

<研究テーマ>学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それにかかわる支援の在り方

<主要研究業績>

・「職業安定法改正による求人トラブル対策と今後の課題－法改正に至る経緯を踏まえて－」『季刊・労働者の権利』Vol.324（2018年2月）

・「なにが早期離職をもたらすのか」上西充子・川喜多喬編『就職活動から一人前の組織人まで』（同友館、2010年）

・『大学のキャリア支援』（編著、経営書院、2007年）

・『アルバイト・就職トラブルQ&A』（石田眞・浅倉むつ子・上西充子）（旬報社、2017年3月）

【Outline and objectives】

Amid emerging social problems young people face during the difficult transition from school to work, and the appalling ways in which young employees are often treated in the workplace, the purpose and ideal form of career education is being reexamined.

In this class, we will study career education policy in light of contemporary social situations confronting young people, and we will take a step back as we question the essential purposes and functions of career education and career support.

教育社会学

筒井 美紀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」を「社会学する」とはどういう動作をすることなのか？ このクラスでは、その基礎を徹底的にマスターする。

【到達目標】

ゴールは 3 つ。第 1 に、「私は教育社会学します I do the sociology of education.」と言えるようになること。すなわち、教育に関するさまざまな「常識」を問い直し、「ツッコミ」を入れ、深く調べ尽くし、それを論理性・説得力を持たせて言語化するという一連の動作ができるようになること。第 2 に、学術論文が如何に組み立てられているのか、それを頭と身体で習得すること。第 3 に、歪み・軋みが生じ大変な事態にある日本社会の、教育・福祉・労働をはじめとしたさまざまな領域を、一体どのように再創造していけばよいだろうか？ について脳ミソを絞り、自分自身のスタンスを確立する。具体的には、自治体と地域の就労支援に関する文献講読と議論である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第 1・第 2 のゴールについては、まずは筒井 (2014a) によって「大学院で学び研究する」動作に入るウォーミングアップをする。続いて伊藤 (2009) をはじめ教育社会学の論文を読み込んでいく。毎回全員が予習として「要約」と「コメント」を書き出席する。第 3 のゴールについては、筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著 (2014) 『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み』を活用する。以上、毎回発表当番 2 人制とし、議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の「他己」紹介/このクラスの進み方/発表当番決め
2	学術論文とは何か	「学術論文 7 つの構成要素」（筒井オリジナル）を理解する
3	筒井 (2014) Guidance 1&2	自分がしてきたのは「勉強」であって「研究」ではないことを理解する
4	筒井 (2014) Guidance 3&4	「研究」とは何かを理解する
5	筒井 (2014) Guidance 5	「研究」という動作と「研究の共同体」を理解する。
6	筒井 (2015, 未定稿)	社会人院生が陥りやすい落とし穴を自覚する
7	伊藤 (2009) の要約	要約を通した「学術論文 7 つの構成要素」の習得。
8	伊藤 (2009) の議論	質的調査研究のイメージをつかむ
9	筒井 (2016) の要約	要約を通した「学術論文 7 つの構成要素」の習得。
10	筒井 (2016) の議論	歴史的調査研究のイメージをつかむ
11	筒井 (2016) の草稿を読んだ課題	論文は一筆書きでは書けないことを理解する
12	筒井 (2016) の草稿を読んだ議論	査読者コメントの活かし方を学ぶ
13	嶋内 (2015a)	デンマークの教育体系について基礎知識を得る。
14	嶋内 (2015a)	リサーチクエストを設定する練習をする
15	筒井 (2018)	デンマークの、アクティベーション政策に関わる継続教育（社会人教育）について基礎知識を得る。
16	筒井 (2018)	機能主義理論と葛藤理論の理解を深める
17	濱口 (2007), 柳沢 (2009)	デンマークの解雇規制やフレキシビリティについて基礎知識を得る。
18	Madsen(2006) の抜粋 (pp.330-331)	積極的労働市場政策の理解を深める
19	嶋内 (2012)	デンマークのアクティベーション政策について基礎知識を得る。
20	嶋内 (2012)	「理念型」「シティズンシップ」の理解を深める
21	嶋内 (2015b)	デンマークの「教育アクティベーション」について基礎知識を得る。
22	嶋内 (2015b)	教育をロマン化しないというセンスを磨く

23	筒井 (2019)	キャリアヒストリーから教育政策を照射するというスタイルについて考察する。
24	筒井 (2019)	同拙論がなぜ「研究ノート」なのか (7 つの構成要素の何が欠けているか) を考察する
25	卒論構想発表の予行演習 ①	<学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表
26	卒論構想発表の予行演習 ②	<学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表
27	卒論構想発表の予行演習 ③	<学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表
28	卒論構想発表の予行演習 ④	<学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3・4～5・6 は、自分の振り返りと疑問点などを全員が書いてくる。
7・8～13・14 の予習は、「要約 (1200 字以内)」と「コメント」を全員が書いてくること。報告者以外も 2 部作成し、1 部を筒井に提出。コメントを付けて、当日授業終了時までに返却する。
15・16～25・26 (筒井・櫻井・本田編著 2014) では、「コメント」を全員が書いてくること。
27・28～29/30 は卒論構想発表。現時点で持っている材料でよいから、挑戦してみる。

【テキスト（教科書）】

・伊藤秀樹 2009 「不登校経験者への登校支援とその課題」『教育社会学研究』第 84 集： pp.207-225.
・濱口桂一郎 2007 「解雇規制とフレキシビリティ」『季刊 労働者の権利』2007 年夏号
・PER KONGSHØJ MADSEN 2006 “How Can It Possibly Fly? The Paradox of a Dynamic Labour Market in a Scandinavian Welfare State” John L. Campbell, John A. Hall and Ove K. Pedersen eds. National Identity and Varieties of the Capitalism – the Danish Experience, pp.323-355.
・嶋内健 2012 「就労アクティベーションからワークフェアへ？ デンマーク」福原宏幸・中村健吾編『21 世紀のヨーロッパ福祉レジーム：アクティベーション改革の多様性と日本』糺の森書房 pp.66-89
・嶋内健 2015a 「デンマークにおける初期職業教育：制度の概要とガバナンス」『技術教育学の探求』（名古屋大学大学院教育学研究科紀要）pp.73-81.
・嶋内健 2015b 「就労アクティベーションから教育アクティベーションへ——デンマークにおける公的扶助改革」福原宏幸・中村健吾・柳原剛司編著『ユーロ危機と欧州福祉レジームの変容——アクティベーションと社会的包摂』明石書店 pp.178-201
・筒井美紀 2014 「大学選びより 100 倍大切なこと」ジャパンマニスト社
・筒井美紀 (2015, 未定稿) 「社会人大学院生の落とし穴—「しょうもない」修士論文を書かないために—」
・筒井美紀 2016 「大阪府における地域雇用政策の生成に関する歴史的文脈の分析——就労困難者支援の体系化に対する総評労働運動の影響——」『日本労働社会学年報』第 27 号 pp.107-131.
・筒井美紀 (2016) の草稿
・筒井美紀 (2018) 「アクティベーションに必要な知識・スキルはどこで学べるのか——メトロポール高等専門学校の職業継続教育に関する基礎的叙述——」櫻井純理代表 「地方分権下におけるアクティベーション政策のガバナンス構造に関する研究」成果報告書 平成 27-29 年度の科学研究費補助金 基盤研究 (C)
・Tsutsui, Miki, (2019) “An examination of the vocational education and training system under which people can choose career change and development with less difficulties: Based on an interview with an electrician in Denmark” in 『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第 16 号
・柳沢房子 2009 「フレキシビリティ EU 社会政策の現在—」『レファレンス』pp.81-103

【参考書】

筒井美紀 (2016) 『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

・予習課題の出来具合：40 % (未提出の場合は減点)
・報告当番：20 % (社会的思考・社会学の諸概念の理解とコメントの質)
・平常点：30 % (発言：質・社会的思考、社会学の諸概念の理解)
・卒論構想発表：10 %

【学生の意見等からの気づき】

上記の予習の義務は多少しんどいと思いますが、赤ペンを入れての授業修了時の返却は大変好評ですので継続します。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

私は、「何を知るか What to know」よりも「如何に知るか How to know」を重視して授業します。つまり、「知識や理論が増えたら頭がよくなって論文が書けるようになる」という、多くの大学院生が無駄に陥る誤解の完全なる払拭に、まず全力を注ぎます。だから常に「書け」「議論せよ」と言います。以上、授業は極めて実践的です。

【担当教員の専攻分野等】

<専門領域> 教育社会学、労働社会学
<研究テーマ> 自治体や国、NPO の就労支援、学校から職業への移行、労働教育
<主要研究業績>

- ・筒井美紀 (2018) 「新規高卒採用に関する企業の認知と行為ー定点観測的インタビューの分析から」 JILPT 編『新規高卒就職の現在』
- ・筒井美紀 (2017) 「『変容する産業・労働と教育の結びつき』へのアプローチ」『教育社会学のフロンティア 1 学問としての展望と課題』日本教育社会学会編／本田由紀・中村高康責任編集、岩波書店、pp.275-294.
- ・筒井美紀 (2016) 『殻を突き破るキャリアデザインー就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣
- ・筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著 (2014) 『就労支援を問直すー自治体と地域の取り組み』勁草書房
- ・筒井美紀 (2014) 「大学から労働への移行」岩上真珠・大槻奈巳編著『大学生のためのキャリアデザイン』、有斐閣
- ・筒井美紀 (2012) 「職業訓練と職業斡旋ー労働力媒介機関の多様性と葛藤、労働政策研究・研修機構編、『アメリカの新しい労働組織とそのネットワーク』
- ・遠藤公嗣・筒井美紀・山崎憲 (2012) 『仕事と暮らしを取りもどすー社会正義のアメリカ』岩波書店。(第2&3章執筆)
- ・本田由紀・筒井美紀編著 (2009) 『仕事と若者』、日本図書センター。
- ・J. フィッツジェラルド著、筒井・阿部・居郷訳 (2008) 『キャリアラダーとは何か』勁草書房。
- ・筒井美紀 (2006) 『高卒労働市場の変貌と高校進路指導・就職斡旋における構造と認識の不一致』、東洋館出版社。

【Outline and objectives】

What does it mean "do the sociology of education"? In this class the students are to master the basic skills of the sociology of education.

EDU5M1 - 1305

生涯学習論

笹川 孝一

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：

キャリアデザイン学研究と「仕事」「リテラシー」「コンピテンシー」「生涯学習」の再検討

この授業では、キャリアデザイン学の研究、修士論文執筆に必要な、「キャリア」「キャリアデザイン」「仕事」「リテラシー」「コンピテンシー」「キャリア教育」「生涯学習」「学習権」「キャリア権」などの基礎概念を再検討する。

また、具体的なキャリアデザインの場面で求められる、「体験の経験化」「体験の振り返り」の意味やその技法としての「自分史」「キャリアモデル・ケーススタディー (人物研究)」「研究組織・集会」「learning organization」=探求する組織作りなどを具体例に即して学ぶ。

このような授業を行う理由は次のとおりである。

キャリアデザインが必要とされる基盤は、①産業革命以後の市場経済と、②それを基盤とする契約社会化、③市民社会化、④リテラシー社会化にある。

その中で、一人ひとりの人間にとって、職業を含む人生=キャリアを自分自身で選り創ることが必要となった。

そして、自分のキャリアを不断に選り創るためには、①自分と他の人や物事との関係性に注目しながら、②自分と自分が生きる時代・社会を知り、自分や社会・時代を変えていくことが求められるようになった。

この自分と時代・社会のキャリアデザインのためには、①職業を含む多面的な「仕事」の再把握と、②「仕事」を行っていくための「リテラシー」「コンピテンシー」の質を高めること、③それを可能にする生涯にわたる「学習」が必須になる。

しかし、これらの用語は必ずしも厳密に定義されずに使われていることも多い。そのために、書籍や論文等における概念構成がラフなままされ、論点が煮詰まらない場合も少なくない。

そこで本授業では、これらに関して、受講生一人一人の具体的問題関心を踏まえて、基礎概念を再検討し、技法を具体的に知ることを通して、「キャリア」「キャリアデザイン」「生涯学習」のイメージを豊かにする。

そしてこれによって、修論執筆を目指す受講生の「キャリアデザイン学研究」の能力を高めることに資する。

【到達目標】

1) 「キャリアデザイン」の内実は、職業を含む日常の仕事や遊び、学び、祈りの実践を基礎とし、それを把握し再構成するために、生涯にわたって「学習」を組み換えながら行う過程であることを理解する。

2) 生涯にわたる学習が、人生にとって有効に働くため必要な、次の基礎概念をチェックし自分で再構成する能力を身につける。

すなわち、①「学習」が常に適切とは限らない「学習のパラドックス」。②リテラシーと表現の矛盾とその展開としての「機能的・批判的リテラシー」。

③臨機応変の協働力としての「コンピテンシー」。④熟慮しつつ適切にプロジェクトを構想・構成・実施できるリフレクション能力 (コア・コンピテンシ)。⑤「問題解決学習」「自分史」「生活空間学習」「キーワード学習」などの生涯学習の基本技法。⑥探求する力としての learning、学習権 (right to learn) とキャリア権。⑥持続可能な地球・社会・人を目指す「キャリア教育」と現代的生涯学習社会とくにアジア太平洋学習権共同体。

3) 以上について、受講者が自らの経験と課題意識に即して検討し、修士論文を構成する能力を身につける。とくに、自分が研究対象とする事ごとに相応しく基礎用語、基礎概念を定義する発想と習慣と能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

①教員による講義と ②院生による小レポート、③それらに基づくディスカッションの3つを基本として、授業を進める。

院生の研究テーマや方法の検討も適宜行い、院生相互の研究的な理解と交流を促進する機会もしたい。

また、文字・記号だけに頼らずに、具体的なものを取り扱うアナログの世界も大切に。そのために、必要に応じて、法政大学の近くにある、博物館・美術館訪問も検討する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容	
第1回	「キャリアデザイン学」における「生涯学習の視点」の大切さ～授業のテーマについて～	この授業のテーマ、キャリアデザイン学、キャリアデザイン研究にとっての「生涯学習の視点」の必要性について述べる。 とくに、人生における行為の連鎖としての「キャリア」と、それを意識的に「キャリアデザイン」や「キャリアアブランチング」との関係、キャリアデザインを主導する「生涯学習」やコンピテンス等の能力形成過程との関係について説明する。	三つの能力を獲得し、発揮する上で必要な、知識の習得と活用、文字記号の習得と活用、イメージの習得と活用と「PDCA サイクル」＝「格物致知窮理サイクル」とチェック機能を含む「学」「習」「問」の関係を考える
第2回	授業の進め方についての協議	受講生の自己紹介と授業への希望、講義内容についての共感や疑問等を述べてもらい、授業の具体的なすすめ方について協議する	第14回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。
第3回	キャリアデザイン学と「生涯学習の視点」「能力形成」との関係について(その2)	第1、2回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。	第15回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。
第4回	「人生」、キャリアデザインと「仕事」「遊び」表現、学習	人の一生と動物の一生との異同をふまえて、キャリアデザインの要素である「仕事」「あそび」「表現」「学習」=意識化過程について考える	第16回 コンピテンスと知識の「個人化」「地域化」、「キャリア発達」と「自己教育能力」
第5回	「人生」、キャリアデザインと「仕事」「遊び」表現、学習(その2)	第4回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。	第17回 コンピテンスと知識の「個人化」「地域化」、「キャリア発達」と「自己教育能力」(その2)
第6回	「近代的個人」とキャリアデザインの矛盾	産業革命と市民社会化の中で生まれる「近代的個人」がキャリアデザインの自由をもち、それを「強制」されながら、新しい共同体、とコンピテンス、リテラシー、学校・職場・地域・家族を生み出してきたこと、及びそこに内在する矛盾について考える。また、「私」としての「ego」を互いに尊重しあうことを通じて、「私たち」＝「socio」=きずな、共同、共同体にいたる筋道＝「ego-ism」と、「自己肯定感」との関係についても考える。	第18回 受験勉強、リテラシーの世界、OECD 国際学力テスト
第7回	「近代的個人」とキャリアデザインの矛盾(その2)	第6回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。	第19回 受験勉強、リテラシーの世界、OECD 国際学力テスト(その2)
第8回	論争的な「キャリア」と「キャリアデザイン」	「キャリア組」「キャリア・ウーマン」「職業キャリア」「ライフキャリア」「キャリアデザイン」「ワークライフバランス」など、日本における「キャリア」と「キャリアデザイン」に関連する用語の変遷をたどりながら、エリート男性のキャリアからすべての人のキャリアへ、職業のみのキャリアから生活全般にわたるキャリアへ、人だけのキャリアから人と組織と地球のキャリアへ、キャリアの展開方向を探る	第20回 「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」
第9回	論争的な「キャリア」と「キャリアデザイン」(その2)	第8回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。	第21回 「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」(その2)
第10回	「学習」のパラドックスと unlearning、リテラシー	「キャリアデザイン」に必要な「学習」には、「情報の嚙呑み」「不当な一般化」「伝聞・断定・推定の混同」などの「落とし穴」があるので無条件では肯定できないこと、固定観念の削ぎ落とし＝ unlearning や記号的表現としてのリテラシーの矛盾を意識した「学習」＝クリティカル・リテラシーの重要性を考える	第22回 成人の学習と生涯教育の構造
第11回	「学習」のパラドックスと unlearning、リテラシー(その2)	第10回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。	第23回 成人の学習と生涯教育の構造(その2)
第12回	abilities competency, capability ～キャリアで残と「能力」「社会人基礎力」「人間力」～	キャリアデザイン、生涯学習が目指す「abilities」「competency」「capability」という三つの能力の特徴相互関係について考える その際に、OECD のキーコンピテンス論や学習指導要領における「コンピテンス(資質・能力)」論、企業社会における「コンピテンス人事」についても考える。	第24回 自分史、課題解決学習＝プロジェクト研究(「PBL」)、生活空間学習、キーワード学習 ～コンピテンスを豊かにする生涯教育の技法～
第13回	ability, competency, capability ～キャリアデザインと「能力」「社会人基礎力」「人間力」～(その2)	第12回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。	第25回 自分史、課題解決学習＝プロジェクト研究(「PBL」)、生活空間学習、キーワード学習 ～コンピテンスを豊かにする生涯教育の技法(その2)
			第26回 「生涯教育実践」の構造と社会的分業・協力 学習者に直接的に働き掛ける「狭義の生涯教育実践」と教材作り、制度設計、財政措置、人材育成等の「広義の生涯教育実践」にわけながら、社会全体での協力・分担を考える
			第27回 「生涯教育実践」の構造と社会的分業・協力(その2) 第26回の授業についての受講生の感想(A4で1枚程度)の発表とディスカッション、補足説明。

第 28 回 キャリアデザインを支える キャリアデザインを支える社会的シス
 たる「生涯学習社会」の法・ テムとしての「生涯学習社会」の法、
 制度・政策、国際協力 政策、国際協力について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストを事前に読んでおくこと
- ・毎回の授業について、小レポートを書くこと
- ・参考文献として掲げた古典文献に親しむこと

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局

【参考書】

『キイ・コンピテンシ』明石書店
 宮原誠一『青年期の教育』岩波新書
 福澤諭吉『学問のすすめ』岩波文庫
 マックスウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫
 フランクフルト『フランクフルト自伝』岩波文庫
 『論語』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業出席とディスカッションへの参加 50%
- ・折々の小レポート提出 30%
- ・最終レポート提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な学習プログラムに関係する部分を増やすことを心掛ける。
 受講生である院生自身の研究テーマとの関連でのディスカッションを大切に
 する。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフト Office

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

生涯教育学、社会教育学、キャリアデザイン学

<研究テーマ>

「仕事」論、リテラシー論、コンピテンシー論、自分史論

<主要研究業績>

- ①「エゴイズムと自己表現～生涯教育学とキャリアデザイン学との接点～」『資格課程年報』第 6 号 法政大学資格課程 2016 年 3 月
- ②日本社会教育学会編『社会教育としての ESD』東洋館出版社 2015 年 9 月
- ③笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局 2014 年 3 月
- ④日本湿地学会編『図説 日本の湿地～人と自然と多様な水辺～』朝倉書店 2017 年

【Outline and objectives】

This class is about a study of career studies and reconsidering the“job”,“literacy”,“competency”and“lifelong learning”.

MAN5M1 - 1401

キャリア開発論

武石 恵美子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえることができるようになるとともに、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおり。

- ・個人のビジネスキャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつ。
- ・ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解する。
- ・関連する文献、論文の講読を通じて、自身の問題意識を明確にし、それを主張することができる。
- ・研究テーマに対してどのように研究を進めればよいか、研究方法論について一定の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、下記の大テーマに関連して、理論等の概説や問題提起を中心とする講義、受講者による指定文献の報告・討論を組み合わせ実施します。ただし、授業内容は、受講者の状況に応じて変更することがあります。

- (1) キャリア開発に関する基礎
- (2) キャリア開発の変化の動向
- (3) 個人が進めるキャリア開発
- (4) キャリア開発を支援する組織、社会

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の説明、受講者の問題意識についてのディスカッション。
2 回	キャリア開発概論	キャリア開発についての概論。
3 回	キャリア開発をとらえる視点	キャリア開発をとらえる視点について。
4 回	キャリア開発にかかわる理論的な枠組み	キャリア開発を議論するうえで重要な理論的な枠組みについて。
5 回	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体について。
6 回	人材育成との違い	キャリア開発と人材育成との視点の違いについて。
7 回	経済環境の変化とキャリア自律	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発、キャリア形成のモデルやそのあり方がどのように変化したのか、縦断的な視点からのアプローチを行う。
8 回	経済環境の変化とキャリア自律（文献講読等）	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発がどのように変化したのかについて、文献をもとにディスカッションをする。
9 回	ダイバーシティ経営	人材の多様性を生かすダイバーシティ経営について事例を含めて検討する。
10 回	ダイバーシティ経営（文献講読等）	人材の多様性を生かすダイバーシティ経営について、文献をもとにディスカッションをする。
11 回	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、課題について「多元化」の切り口から考察する。
12 回	正社員の多元化とキャリア開発（文献講読等）	正社員の働き方の現状、課題について、文献をもとにディスカッションをする。
13 回	ワーク・ライフ・バランス、働き方改革	ワークライフバランス政策、企業が行う働き方改革について理解する。
14 回	ワーク・ライフ・バランス、働き方改革（文献講読等）	ワークライフバランス政策、企業が行う働き方改革について、文献をもとにディスカッションをする。
15 回	女性のキャリア開発	ジェンダーの視点から男女の雇用格差の実態を把握し、女性のキャリア開発の課題を検討する。
16 回	女性のキャリア開発（文献講読等）	女性のキャリア開発の課題について、文献をもとにディスカッションをする。
17 回	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発について検討する。

18 回	育児期のキャリア開発 (文献講読等)	育児と仕事の両立、育児期の男女の キャリア開発について、文献をもとに ディスカッションをする。
19 回	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立のあり方について検 討する。
20 回	介護責任とキャリア開発 (文献講読等)	介護と仕事の両立のあり方について、 文献をもとにディスカッションをする。
21 回	再就職者のキャリア開発	女性のライフコースとキャリアを理解 するうえで重要な再就職をめぐる現状 と課題について検討する。
22 回	再就職者のキャリア開発 (文献講読等)	再就職をめぐる現状と課題について、 文献をもとにディスカッションをする。
23 回	ブラック企業問題	ブラック的な働き方の背景や課題につ いて検討する。
24 回	ブラック企業問題 (文献 講読等)	ブラック的な働き方について、文献を もとにディスカッションをする。
25 回	非正規雇用とキャリア	パート、派遣などの非正規労働者の キャリア開発の現状と課題について検 討する。
26 回	非正規雇用とキャリア (文献講読等)	パート、派遣などの非正規労働者の キャリア開発の現状と課題について文 献をもとにディスカッションをする。
27 回	総括	授業の振り返り
28 回	総括	授業のまとめ、ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講読する文献を読んで授業に臨むことが受講の必須条件です。そうしな
いとディスカッションに参加できなくなります。
また、全体で2回のレポート課題があります。

【テキスト (教科書)】

テキストは、武石恵美子 (2016)『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合
う』中央経済社、を使用します。
このほかに関連する文献を講読します。講読する文献は授業で具体的に指定
します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 30 % : ディスカッションへの参加も含む
- 報告 30 % : 報告の内容、レジュメの準備、質問への対応などで評価
- レポート 40 % : 3 回のレポート内容。未提出や期限を過ぎての提出があれば不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

修士論文の課題設定や執筆のための視点の提供をしていくとともに、受講者
からのプレゼンテーションや話題提供をベースにしたディスカッションを積
極的に取り入れていきます。
また、課題のレポートはコメントを付けて返却し、それをもとに論文の書き
方についての解説も加えます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 人的資源管理論、女性労働論
<研究テーマ> 働き方の多様化、ダイバーシティ経営、女性のキャリア形成
<主要研究業績>

- ① 『ダイバーシティ経営と人材活用』(共編著)、東京大学出版会、2017 年。
- ② 『キャリア開発論』、中央経済社、2016 年。
- ③ 『ワーク・ライフ・バランス支援の課題』(共編著)、東京大学出版会、2014 年。
- ④ 『国際比較の視点から日本のワーク・ライフ・バランスを考える』(編著)、ミネルヴァ書房、2012 年。
- ⑤ 『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』(共編著)、勁草書房、2011 年。
- ⑥ 『職場のワーク・ライフ・バランス』(共著) 日本経済新聞出版社、2010 年。
- ⑦ 『義書働くということ 第 7 巻 女性の働きかた』(共編著)、ミネルヴァ書房、2009 年。
- ⑧ 『人を活かす企業が伸びる－人事戦略としてのワーク・ライフ・バランス』(共編著) 勁草書房、2008 年。
- ⑨ 『雇用システムと女性のキャリア』 勁草書房、2006 年。

【Outline and objectives】

This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development.

人的資源管理論

藤本 真

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済・社会活動がグローバル化するなかでの競争の激化や、経済社会の成熟化により、日本企業は事業運営においてこれまでにない模索を強いられ、時に大きな事業革新を求められています。一方で、人口高齢化と人口減少の進行は、企業の人的資源の担い手を大きく変えつつあります。本授業では、以上のような状況のもとで、日本企業が進めている人的資源管理の取り組みとその背景、および取り組みがもたらす影響について理解し、今後のあり方について検討を行うための視点を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ① a. これからの日本企業の人的資源管理において重要度が増すと考えられる課題、b. これまでも重要性が高かったが人的資源管理活動の可能性が十分に検討されてこなかった課題について、講義と演習における議論について通じて理解を深め、今後の人的資源管理活動のあり方について検討できるようにする。
- ② 日本企業が進めている (または今後進める可能性がある) 人的資源管理において、企業、職場、個人が果たしている役割や、人事労務管理の進行により企業、職場、個人が受ける影響について、理解・検討できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 第 1 回から第 3 回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、日本企業における人的資源管理の基本的な内容と変化のトレンドに関する講義を行います。
 2. 第 4 回目以降は、日本企業の人的資源管理に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」(6 時限目)と「演習」(7 時限目)を行います。
 3. 「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
 4. 「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。
 5. 授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています (「授業計画」には、担当者が 2018 年度の授業で取り上げたテーマと各テーマに対応するトピックを、授業で実施した順に記しています)。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第 2 回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
<取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外>
- 人手不足社会における人的資源管理の役割
 - 外国人の採用と育成・定着・キャリア管理
 - 女性従業員の配置とキャリアー「女性活躍」を可能にするキャリア管理
 - 働き方の新たな形－オフィスは必要か？－
 - ミドルエイジの転職増加にどのように対応するか
 - 子会社・関連会社の人事労務管理－出向・転籍慣行の現在－
 - 「企業プロフェッショナル」の育成と処遇
 - シニア層の雇用・キャリア管理の現状と課題
 - 親・配偶者の介護と仕事との両立
 - 「好活」と仕事の両立
 - 「協調的労使関係」の現在
 - ハラスメントと「日本型職場」と人的資源管理と
 - 「心の労働」を管理する？－「感情労働」の増加と課題－
 - AI の発達・普及と人的資源管理
6. 授業期間中、人的資源管理の企画・立案に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本企業の人的資源管理における取り組みと今後に向けた模索について、より理解を深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第 2 回	イントロダクション	昨今の日本企業の人的資源管理をめぐるトピックの提起・検討
第 3 回	ガイダンス	参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討
第 4 回	日本企業の人的資源管理・基礎①「日本企業の人的資源管理における基本的特徴」	日本企業の人的資源管理・基礎①－採用、配置、キャリア管理、報酬管理における基本的特徴

第5回	日本企業の人的資源管理・基礎②「日本企業の人的資源管理の成り立ち・変容とこれから」	経営家族主義、職工同一化、生計費保障の思想、「長期安定雇用」の規範化、能力主義管理、複線型管理、成果主義賃金、少子高齢化とグローバル化の中での取り組み	第24回	日本企業の人的資源管理における課題⑨「『2020年型』望ましい賃金制度は何か？」	賃金制度の内容と運用に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う
第6回	日本企業の人的資源管理・基礎②「日本企業の人的資源管理の成り立ち・変容とこれから」	日本企業の人的資源管理のこれまでを踏まえた、今後のあり方についての議論・検討を行う	第25回	日本企業の人的資源管理における課題⑩「ダイバーシティ・マネジメントと人的資源管理」	ダイバーシティ・マネジメント、性別職域分離、統計的差別、アフターマティブ・アクション、LGBT、ダイバーシティ・インクルージョン
第7回	日本企業の人的資源管理における課題①「働き方改革」[生産性を高める働き方]について考える	働き方改革、(労働)生産性、裁量労働制度、ワーク・ライフ・バランス、業務改革、会議改革、従業員満足、従業員経験、組織活性化	第26回	日本企業の人的資源管理における課題⑩「ダイバーシティ・マネジメントと人的資源管理」	ダイバーシティ・マネジメントと人的資源管理をめぐるトピックについて、問題提起と議論・検討を行う
第8回	日本企業の人的資源管理における課題①「働き方改革」[生産性を高める働き方]について考える	「働き方改革」や生産性向上のための取り組みに関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	第27回	日本企業の人的資源管理における課題⑪「グローバル人材」の確保と活用	グローバル人事管理に関する企業の関心、「グローバル人材」の採用と配置、グローバル人材育成システムの整備、グローバル共通の処遇制度、グローバルとローカルの関係
第9回	日本企業の人的資源管理における課題②「タレント・マネジメント」とは	タレント・マネジメント、新卒採用/中途採用、スベック採用、エンゲージメント、ウォー・フォー・タレント、キャリア開発、コーポレート・ユニバーシティ	第28回	日本企業の人的資源管理における課題⑪「グローバル人材」の確保と活用	グローバル人材をめぐる人的資源管理に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う
第10回	日本企業の人的資源管理における課題②「タレント・マネジメント」とは	「タレント・マネジメント」に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 「授業の進め方と方法」にも記しているとおり、第4回目以降の授業は、「講義」と「演習」を組み合わせて進めていきますが、「演習」は参加者の作成したレポートに基づいて行ないます。参加者には、毎回、テーマに関連する人的資源管理における取り組みの現状と課題、及び個人的な問題意識について「A4一枚程度のレポート」にまとめてもらい、毎回参加者人数分のコピーを持参してもらいます。 このレポートは、インターネット上で収集可能な諸情報や勤務先のケーススタディをベースに現状を捉え、自らの問題関心を簡単に取りまとめるかたちで結構です。作業のイメージができなければ、各回の授業の前に「トピック・キーワード」を担当教員から発表しますので、そのキーワードを参考に、インターネットで検索してまとめてみてください。それらレポートの中から担当教員が「的確な論点整理をしているもの」を3~4名選び、それぞれ内容について報告を求めつつディスカッションを行います。報告指名が増えるよう、積極的なレポート準備を期待します。 また、報告者以外の参加者にも毎回必ず討議への参加（発言）を求めますので、そのための準備（考え方の整理や事例の把握など）が必要になります。		
第11回	日本企業の人的資源管理における課題③「従業員の「学び」を継続することは可能か？」	OJT、ジョブ・ローテーション、Off-JT、研修、学習転移、経験学習、自己啓発・自己啓発支援、エンプロイアビリティ、キャリア自律、ミドル・シニアの学び、越境学習、組織開発	従業員に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う		
第12回	日本企業の人的資源管理における課題③「従業員の「学び」を継続することは可能か？」	パートタイム労働者、「柔軟な企業」モデル、「雇用ポートフォリオ」、非正規労働者の基幹化、非正規労働者のキャリア形成、正社員転換制度、無期転換ルール、副業、均衡処遇	多様な雇用・就業形態のマネジメントに関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う		
第13回	日本企業の人的資源管理における課題④「多様な雇用・就業形態のマネジメント」	多様な雇用・就業形態のマネジメントに関わるトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	【テキスト（教科書）】 講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。		
第14回	日本企業の人的資源管理における課題④「多様な雇用・就業形態のマネジメント」	ブレイング・マネージャー化、部長職の削減、複線型キャリア、女性管理職の育成・確保、「遅い選抜」、抜擢人事、管理職による就業管理、パワーハラスメント	【参考書】 1. 毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。 2. また、各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。 ①佐藤博樹、藤村博之、八代充史 [2015] 『新しい人事労務管理（第5版）』、有斐閣。 ②平野光俊、江夏幾多郎 [2018] 『人事管理～人と企業、ともに生きるために』、有斐閣ストゥディア。 ③守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著 [2018] 『価値創発（EVP）時代の人的資源管理』、ミネルヴァ書房。 ④今野浩一郎、佐藤博樹 [2009] 『人事管理入門（第2版）』、日本経済新聞社。 ⑤上林千恵子編著 [2012] 『よくわかる産業社会学』、ミネルヴァ書房。 ⑥佐藤博樹、佐藤厚編著 [2012] 『仕事の社会学～変貌する働き方（改訂版）』、有斐閣。		
第15回	日本企業の人的資源管理における課題⑤「上司・マネージャー」の役割とは	ミドルマネージャーの役割に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	【成績評価の方法と基準】 1. 各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。（第2回以降。2点×出席回数） 2. 第4回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。（3点×提出回数） 3. 出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。（15点×担当教員の指名により授業内で報告した回数） 以上の3つの評価項目において ●「授業における学習姿勢」（上限26点） ●「演習時のレポート全提出」（上限33点） ●3回の「レポート報告」（45点） を達成すれば、100点（A+）に到達するというイメージです。		
第16回	日本企業の人的資源管理における課題⑤「上司・マネージャー」の役割とは	管理職と経営人材、ファスト・トラック、サクセッション・プラン、選抜教育、「プロ経営者」、「一皮むけた経験」	【学生の意見等からの気づき】 人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを上げる」ための営みと、捉えることができます。 授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①～④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、演習で議論・検討していきたいと思っております。		
第17回	日本企業の人的資源管理における課題⑥「社長・経営幹部のつくり方」	経営人材の育成・確保に関わるトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	【担当教員の専門分野等】 <専門領域> 産業社会学、人的資源管理論 <研究テーマ> ①環境変化のもとでの日本企業の能力開発活動、キャリア管理 ②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動。 ③能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能。 <主要研究業績> （書籍【共著】） ○労働政策研究・研修機構編 [2012] 『中小企業における人材育成・能力開発』、労働政策研究・研修機構。		
第18回	日本企業の人的資源管理における課題⑥「社長・経営幹部のつくり方」	過労死、過労自殺、メンタルヘルス不全、休職、ハラスメント、職場のいじめ、「4つのケア」、リワークプログラム、ノー残業デー、三六（さぶろく）協定、時間外労働の上限規制、労働時間インターバル制度、高度プロフェッショナル制度、ホワイトカラー・エグゼンプション	自己都合退職/会社都合退職、定着/リテンション・マネジメント、七・五・三離職、RJP、組織社会化、退職トラブル/退職ハラスメント、整理解雇の4要件、定年、雇用確保措置の義務化、70歳までの雇用・就業、早期退職優遇制度、セカンドキャリア支援（制度）		
第19回	日本企業の人的資源管理における課題⑦「過労死・メンタルヘルス不全を撲滅するには」	退職管理に関わるトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	退職管理に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う		
第20回	日本企業の人的資源管理における課題⑦「過労死・メンタルヘルス不全を撲滅するには」	個別賃金管理/総額賃金管理、目標主義管理、職務給、能力主義/職能給、コンピテンシー、年功賃金、定期昇給、ベースアップ、成果主義、年俸制、役割給/職責給、レンジレート、同一労働同一賃金	第22回		
第21回	日本企業の人的資源管理における課題⑧「退職管理」	退職管理に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	第23回		
第22回	日本企業の人的資源管理における課題⑧「退職管理」	退職管理に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	日本企業の人的資源管理における課題⑧「退職管理」		
第23回	日本企業の人的資源管理における課題⑨「『2020年型』望ましい賃金制度は何か？」	個別賃金管理/総額賃金管理、目標主義管理、職務給、能力主義/職能給、コンピテンシー、年功賃金、定期昇給、ベースアップ、成果主義、年俸制、役割給/職責給、レンジレート、同一労働同一賃金	日本企業の人的資源管理における課題⑨「『2020年型』望ましい賃金制度は何か？」		

○藤本真編著 [2014] 『日本企業における能力開発・キャリア形成—既存調査研究のサーベイと試行的分析による研究課題の検討』, 労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編 [2017] 『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』, 労働政策研究・研修機構。(論文)

○藤本真・大木栄一 [2010] 「ものづくり現場における技能者育成方法の変化—「OJT 中心・Off-JT 補完型」から「OJT・Off-JT 併用型」へ」, 日本労働研究雑誌 No.595。

○藤本真 [2011] 「60 歳以降の勤続をめぐる実態—企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」, 日本労働研究雑誌 No.616。

○藤本真 [2018] 「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 No.691。

【Outline and objectives】

As the economic and social activities become globalized, Japanese companies are forced to seek new business management. They sometimes must carry out big reforms in business and organizations. On the other hand, the aging of the population and the progress of the population decrease in Japan are changing the players of corporate human resources dramatically. In this circumstances, human resource management in Japanese companies are changing.

In this class, we first try to understand the contents and backgrounds of new human resource management efforts in Japanese companies. And then we discuss and understand the roles played by companies, workplaces and individuals in human resources management and the influence for companies, workplaces, and individuals. The final goal is for attendees to conceive and realize the better future of human resources management in Japan.

MAN5M1 - 1403

経営組織マネジメント論

木村 琢磨

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、企業組織のマネジメントに関する基礎的な理論を学び、議論することによって、人材のマネジメント、キャリア開発について企業経営の視点から実証研究を行うための、基礎的な理論的知識・思考力を養うことを目標とします。

「経営組織」は、人がビジネスキャリアを歩む場であり、組織の内部の状況は、そこで働く人のビジネスキャリアに大きな影響を与えます。そのため、人材を育成しようとする企業、および成長しようとする個人にとっては、「経営組織」がどのような場であるかを理解することが重要です。

「経営組織」は、組織として定めた方針・戦略・計画や、職務権限・指揮命令系統にしたがって人材を活用し、育成し、業務を遂行すると考えられています。しかし、経営組織は感情を持つ人間の集団であるために、必ずしも公式の指示・命令や経済的合理性にしたがって動くとは限らず、多くの非公式な活動を伴って動いているのが現実です。本講義では、経営学における主たる分野の1つである組織行動論の理論・概念に焦点を当てて議論します。

【到達目標】

・組織行動論の理論について、古典的研究から最近の研究までの、基礎的学説・理論を理解し、研究の流れを説明することができる。

・組織行動論の知見に基づき、現実の経営組織の諸問題を考察することができる。

・組織行動論の理論や概念に基づいて組織および組織内の個人・集団に関わる現象を分析・説明し、3,000 字程度の小論文にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

土曜日の1・2限で14週(計28回)に行います。実施形態は下記の通りです。

- ・1限：テキストの内容に関する質疑・ディスカッション
- ・2限：受講生の研究課題と関連させた質疑・ディスカッション

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要と目的、到達目標、学習方法
第2回	学術研究の基礎	経営組織・組織行動に関する学術研究の基本的な考え方・方法
第3回	個人の行動の基礎(1)	価値観、態度
第4回	個人の行動の基礎(2)	認知、学習
第5回	パーソナリティと感情(1)	パーソナリティ
第6回	パーソナリティと感情(2)	感情
第7回	動機づけの基本的なコンセプト(1)	初期の動機づけ理論
第8回	動機づけの基本的なコンセプト(2)	現代の動機づけ理論
第9回	動機づけ：コンセプトから応用へ(1)	目標による管理、行動修正法、従業員認知プログラム、従業員の巻き込みプログラム
第10回	動機づけ：コンセプトから応用へ(2)	職務再設計と勤務形態の選択、変動給与制、能力給
第11回	個人意思決定(1)	意思決定はどのように行われるか
第12回	個人意思決定(2)	意思決定の実際、意思決定における倫理
第13回	集団行動の基礎(1)	集団の定義と分類、集団の基本的概念
第14回	集団行動の基礎(2)	集団の意思決定
第15回	チームを理解する(1)	チームが多用される理由、チームとグループの違い、チームのタイプ
第16回	チームを理解する(2)	チーム・ビルディング、チームプレイヤ
第17回	コミュニケーション(1)	コミュニケーションの機能・プロセス・方向
第18回	コミュニケーション(2)	コミュニケーションの阻害要因、異文化コミュニケーション
第19回	リーダーシップ(1)	リーダーシップの定義、特性理論、行動理論、条件適合理論
第20回	リーダーシップ(2)	カリスマ的リーダーシップ、信頼とリーダーシップ
第21回	パワーと政治(1)	パワーの定義、パワーの源泉、パワーと依存

第 22 回	パワーと政治 (2)	連帯形成、社内政治
第 23 回	コンフリクトと交渉 (1)	コンフリクトの定義と分類
第 24 回	コンフリクトと交渉 (2)	コンフリクトのプロセス、交渉
第 25 回	組織文化 (1)	組織文化の定義と機能
第 26 回	組織文化 (2)	組織文化の構築・変革
第 27 回	組織変革と組織開発 (1)	変革への圧力、変革エージェント
第 28 回	組織変革と組織開発 (2)	変革への抵抗、組織開発

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎週、テキストの該当章を事前に読んでくること
- ・疑問点・論点をいくつか考えて授業当日に提示すること

【テキスト (教科書)】

スティーブン・P・ロビンズ著、高木晴夫訳 (2009)『組織行動のマネジメント (新版)』ダイヤモンド社

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

1. 討議への参加・貢献 (50%)
積極的に発言すること。そのうえで、以下のような発言を歓迎する。
・議論を活性化させる質問・問題提起
・理論に基づいた現実の論理的考察・整理
・それに基づいた施策の提言、新たな研究課題の提示
2. 論点提示 (50%)
担当章について十分に考察し、視点の広がりを持たせるような論点を提示すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度までの講義形式から輪読形式へと変更。
- ・昨年度までは通常のテキストでは扱われていない応用的・先端的な内容を主として扱ってきたが、本年度は基礎的な内容を主に扱うこととした。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキスト

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

組織行動論 (organizational behavior)

<研究テーマ>

- ・組織内政治 (社内政治: organizational politics)
- ・倫理的リーダーシップ (ethical leadership)

<主要研究業績>

- ・How and when corporate social responsibility affects salespeople's organizational citizenship behaviors?: The moderating role of ethics and justice. Corporate Social Responsibility and Environmental Management, Online First
- ・The roles of political skill and intrinsic motivation in performance prediction of adaptive selling. Industrial Marketing Management, Online First
- ・Work overload and intimidation: The moderating role of resilience. European Management Journal, Online first
- ・Ethical Leadership and Its Cultural and Institutional Context: An Empirical Study in Japan. Journal of Business Ethics, 151(3), 2018, 707-724.
- ・A Review of Political Skill: Current Research Trend and Directions for Future Research. International Journal of Management Reviews, 17(3), 2015, 312-332.

【Outline and objectives】

This course focuses on some of the essential topics in organizational behavior. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to implement human resource management.

MAN5M1 - 1404

人事組織経済学

上原 克仁、都留 康

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業組織や人事制度に関して経済学の理論は有効な分析枠組みを提供します。この授業では、まず人的資本、情報の非対称性、インセンティブ付与、などの理論・概念を学び、企業内人事データを用いて、実際の人事制度と企業組織を分析します。これが講義前半の目的です。

しかし、経済学のツールだけでは、人事制度や企業の組織行動を十全には分析できません。経営学や比較制度分析の知見もまた重要です。こうした観点から、講義の後半では、日本・中国・韓国企業の人材マネジメントの比較を行います。

この授業では、幅広い思考方法を身に付けることを目標とします。こうした思考方法は、修士論文作成はもちろんのこと、実際のビジネスの現場での適切な意思決定にも役立つでしょう。

【到達目標】

授業の前半では、組織内で生じるさまざまな問題を分析する際に有益な経済学のフレームワークを理解し、活用できるようになることを目指します。あわせて、平易な計量分析の分析結果を理解するだけでなく、自ら分析できるようになることも目指します。

授業の後半では、前半で得た経済学の基礎概念と実証分析の方法に基づきながら、さらに経営学や比較制度分析の視点から、日本・中国・韓国企業の人材マネジメントの比較を行います。

全体を通して大切なことは、先行研究を「批判的に読む」ことです。また、修士論文執筆のために「自分で分析できる」こと、「分析したことを論理的に書ける」までになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は上原克仁(静岡県立大学・准教授)が担当し、人事組織経済学 (personnel and organizational economics) の理論・概念の解説 → 分析事例の紹介 → 議論という流れの中で経済学思考方法を習得します。後半はその応用で、都留康(一橋大学・特任教授)が教科書を用いて、先行研究の読み方、仮説の立て方、分析結果の書き方にも触れながら、講義します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期集中**

回	テーマ	内容
8/23 限 (上) 原)	6 オリエンテーション	本講義の概要および講義の進め方の説明、受講者の自己紹介等。
8/23 限 (上) 原)	7 人的資本	人的資本理論、企業特殊熟練について講義する。
8/24 限 (上) 原)	2 人的資本 (事例)	人的資本理論、企業特殊熟練に関する論文を紹介し、議論を通じて理解を深める。
8/24 限 (上) 原)	3 内部労働市場と組織内競争	内部労働市場や職務配置、インセンティブメカニズムとしての昇進について講義する。
8/24 限 (上) 原)	4 実証分析・入門	人事データを用いた実証分析を行うに必要なスキルを、パソコンを用いて手を動かしながら演習形式で習得する。
8/24 限 (上) 原)	5 実証分析・基礎	人事データを用いた実証分析を行うに必要なスキルを、パソコンを用いて手を動かしながら演習形式で習得する。あわせて、分析結果を読めるようになる。
8/26 限 (上) 原)	6 組織内競争 (事例)	昇進に関する論文を学生に報告してもらい、理解を深める。
8/26 限 (上) 原)	7 賃金制度	インセンティブメカニズムとしての賃金制度について講義する。
8/30 限 (上) 原)	6 賃金制度 (事例)	賃金制度に関する論文を学生に報告してもらい、理解を深める。
8/30 限 (上) 原)	7 情報の経済学	情報の非対称性とシグナリング理論について講義する。
8/31 限 (上) 原)	2 人事評価	人事評価について講義する。

8/31 限(上原)	3 人事評価(事例)	人事評価に関する論文を学生に報告してもらい、理解を深める。
8/31 限(上原)	4 実証分析・応用	第6回の演習で習得したスキルをもとに、データを用いて分析してみる。
8/31 限(上原)	5 前半の講義の総括	前半の講義をふりかえり、議論を通じ理解を深める。
9/2 (都留)	6 限 教科書 序章 「製品アーキテクチャと人材マネジメントをなぜ問題にするか」	序章の内容について講義し、後半の講義内容について理解するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/2 (都留)	7 限 教科書 第1章 「製品アーキテクチャと企業内コーディネーション：理論と実証」	第1章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/4 (都留)	6 限 教科書 第2章 「製品アーキテクチャと人材マネジメント：企業レベルでの日中韓比較」	第2章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/4 (都留)	7 限 教科書 第3章 「製品開発プロセスにおける問題発生と解決行動：エンジニア個人レベル日中韓比較」	第3章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/9 (都留)	6 限 実務家ゲスト講義	ゲストスピーカー(大手情報通信企業の(元)人事担当常務役員)をお招きし、教科書に関連するテーマで講義頂く。
9/9 (都留)	7 限 意見交換会	ゲスト講義の内容に関し、ゲストスピーカーを交えて自由な意見交換を行う。
9/11 (都留)	6 限 教科書 第4章 「製品開発におけるアイデア創出、コンセプト策定、および人材マネジメント：企業レベルでの日中韓比較」	第4章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/11 (都留)	7 限 教科書 第5章 「製品開発における上流工程管理と人材マネジメント：開発成果に及ぼす効果の検証」	第5章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/13 (都留)	6 限 教科書 第6章 「企業内コミュニケーション・ネットワークが生産性に及ぼす影響：ウェアラブルセンサを用いた定量的評価」	第6章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/13 (都留)	7 限 教科書 終章 「日本は、日本企業はどうすべきなのか」	終章の内容について講義するとともに、学生とのディスカッションを通じ理解を深める。
9/14 (都留)	3 限 学生報告(2~3名)	受講者に報告をしてもらう。報告の内容については、下記の成績評価の方法と基準を参照のこと。
9/14 (都留)	4 限 学生報告(2~3名)	受講者に報告をしてもらう。報告の概要については、下記の成績評価の方法と基準を参照のこと。
9/14 (都留)	5 限 全体討論	教科書と学生報告を振り返り、ディスカッションを通じて講義内容を総括する。履修者が7名以上の場合は、全体討論を学生報告に替える。
9/14 (都留)	6 限 意見交換会	担当教員と講義内容や各自の問題意識について自由に意見交換する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習として、ディスカッションの前提となる教科書や参考書(該当部分)を読んでもらいます。

【テキスト(教科書)】

後半(都留担当)：
都留康(2018)『製品アーキテクチャと人材マネジメント：中国・韓国との比較からみた日本』岩波書店

【参考書】

前半(上原担当)：
Edward P. Lazear, Michael Gibbs (2017)『人事と組織の経済学 実践編』日本経済新聞出版社
大湾秀雄(2017)『日本の人事を科学する - 因果推論に基づくデータ活用』日本経済新聞出版社
小池和男(2005)『仕事の経済学 第3版』東洋経済新報社
その他、授業のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

前半(上原担当)
平常点(20%)・・・議論への積極的な参加を評価します。
レポート課題(30%)・・・議論を発展させたレポート課題を提出してもらいます。
後半(都留担当)：議論への積極的な参加と学生報告(50%)

学生報告は、組織(企業や官庁など)に雇われている場合で、なおかつ差し支えない場合には、所属する組織の人事制度や人事管理の実態について報告していただきます。それを希望しない学生は、別途、論文等を報告していただきます。なお、これをもってレポートの代わりとし、別途、レポートは求めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教科書。

【専門分野等(上原)】

<専門領域>
人事組織経済学, 人的資源管理
<研究テーマ>
内部労働市場の機能と人事制度の効果に関する実証研究
<主要研究業績>
(1)(単著)『ホワイトカラーのキャリア形成 - 人事データに基づく昇進と異動の実証分析』, 生産性労働情報センター, 2007年。
(2)(共著)『店長は重要か? - 大手自動車販売会社の人事・製品取引データによる計量的事例研究』, 『経済研究』(一橋大学), 第64巻第3号, pp.204-217, 2013年。
(3)(共著)『Incentives and Gaming in a Nonlinear Compensation Scheme: Evidence from North American Auto Dealership Transaction Data』, Evidence-based HRM: a global forum for empirical scholarship, Vol.3, No.3, pp. 222-243, 2015。

【専門分野等(都留)】

<専門領域>
人事組織経済学, 人的資源管理, 製品開発
<研究テーマ>
(1) 人事データ・製品取引データを用いた企業内インセンティブ・メカニズムの実証分析
(2) 製品開発におけるアーキテクチャと人材マネジメントの日中韓比較
<主要研究業績>
(1)(共著)『日本企業の人事改革：人事データによる成果主義の検証』(東洋経済新報社, 2005年)
(2)(共編著)『世界の工場から世界の開発拠点へー製品開発と人材マネジメントの日中韓比較』東洋経済新報社, 2012年)
(3)(単著)『製品アーキテクチャと人材マネジメントー中国・韓国との比較からみた日本』(岩波書店, 2018年)

【Outline and objectives】

This course will overview major topics in personnel and organizational economics including human capital theory, asymmetric information, and the provision of incentives. The course also explains empirical strategies and techniques using personnel records from within the firm. This is the content of the first half of this course.

Since, however, the tools of economics can provide only a partial understanding of actual personnel systems and organizational behavior, we will also utilize insights from management science and comparative intuitional analysis. From this perspective, the second half of this course compares the personnel practices of Japanese, Chinese, and Korean firms.

In sum, this course aims to encourage broader ways of thinking and practicing. This attitude is useful not only for writing Master's theses, but also for making decisions in business situations.

MAN5M1 - 1405

職業キャリア政策論

松浦 民恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「職業キャリア」を軸として、職業の位置づけや職業観とその背景にある社会構造を、歴史的・国際的な観点から理解し、その上で現状について改めて考えます。また、職業能力開発支援政策・職業と人材のマッチング政策の背景・現状について学び、課題やあるべき方向性について考えます。途中で事例紹介のための資料、課題レポートを提出頂き、授業のなかでの発表・ディスカッション・講評（講評はレポートについて）を予定しています。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①職業の位置づけや職業観について、社会構造と関連づけて理解することができる。
- ②職業キャリアに関わる国や企業の政策の現状や課題を理解し、複眼的な視点で考察することができる。
- ③修士論文の作成に向けて、的確な課題設定・仮説提示や、説得的な論旨の展開ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、講義形式（問題提起や概説）だけでなく、輪読やディスカッションを中心とする参画型の形式も取り入れます。輪読については、事前に指定した文献・論文について担当の受講者から報告頂き、全員でディスカッションを行います。また、①勤務先等の事例をご紹介いただく回、②統一テーマ「企業・団体における人材育成（仮）」のなかで自分なりの個別テーマを立てて執筆頂いたレポートをご報告頂く回、も設ける予定です。授業は14週（2限続きで合計28回）で実施します。

なお、受講の状況等によっては、授業計画を一部変更する場合がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明（文献・論文の指定とレジュメ作成の分担、課題レポートのテーマ等） ②受講者の現時点での問題意識の共有 職業の定義や日本における職業の位置づけに関する概説
第2回	職業とは	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（1） 職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（2）
第3回	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（1）	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷に関する概説
第4回	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（2）	職業の変遷に関するディスカッション
第5回	職業観・職業倫理と社会構造（1）	職業観・職業倫理と社会構造に関する概説
第6回	職業観・職業倫理と社会構造（2）	職業観・職業倫理と社会構造に関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第7回	日本の雇用システムのもとでの職業キャリア（1）	日本の雇用システムのもとでの職業キャリアに関する概説
第8回	日本の雇用システムのもとでの職業キャリア（2）	日本の雇用システムのもとでの職業キャリアに関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第9回	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援（1）	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援に関する概説
第10回	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援（2）	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援に関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第11回	事例紹介～企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題（1）	企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題～民間企業（仮）
第12回	事例紹介～企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題（2）	企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題～団体（仮）
第13回	職業キャリア政策（1） 職業キャリアに関連する労働政策の潮流と決定メカニズム	職業キャリアに関連する労働政策の潮流と決定メカニズムに関する概説
第14回	職業キャリア政策（2） 女性活躍推進政策の現状と課題	女性活躍推進政策の現状と課題に関する概説とディスカッション

第15回	職業キャリア政策（3） 同一労働同一賃金の議論の背景と課題	同一労働同一賃金の議論の背景と課題に関する概説
第16回	職業キャリア政策（4） 均等・均衡規制の現状と課題	均等・均衡規制の現状と課題の概説とディスカッション
第17回	職業キャリア政策（5） 労働時間規制の変遷	労働時間規制の変遷に関する概説
第18回	職業キャリア政策（6） 労働時間規制と働き方改革	労働時間規制と働き方改革に関するディスカッション
第19回	職業と人材のマッチング（1） 労働市場における職業と人材のミスマッチ	労働市場における職業と人材のミスマッチに関する概説とディスカッション
第20回	職業と人材のマッチング（2） 官民による人材サービスの種類と役割	官民による人材サービスの種類と役割に関する概説とディスカッション
第21回	職業と人材のマッチング（3） 職業紹介・求人広告の現状と課題	職業紹介・求人広告の現状と課題に関する概説
第22回	職業と人材のマッチング（4） 個人の職業キャリアと職業紹介・求人広告	個人の職業キャリアと職業紹介・求人広告に関するディスカッション
第23回	職業と人材のマッチング（5） 派遣規制の変遷	派遣規制の変遷に関する概説
第24回	職業と人材のマッチング（6） 派遣社員のキャリア形成	派遣社員のキャリア形成に関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第25回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（1）	課題レポートの報告と質疑・講評～民間企業・前半
第26回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（2）	課題レポートの報告と質疑・講評～民間企業・後半
第27回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（3）	課題レポートの報告と質疑・講評～団体
第28回	授業の振り返り	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した論文については、受講者全員が事前に読んでくださいます。また、指定した論文のレジュメ作成を受講者で分担頂きます。これとは別に、授業のなかで事例の紹介（簡単なメモの提出）、課題レポートの報告（事前提出）が必要です。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しませんが、テーマに応じて指定された論文を輪読します（分担してレジュメの作成、報告を頂きます）。輪読する論文については、こちらで準備し、事前にコピー・PDF等を配布します。

【参考書】

授業のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディスカッションへの貢献等）、レジュメの作成・報告（レジュメの内容把握の的確さ、報告のわかりやすさ、質問への対応等）、事例紹介、課題レポートの執筆・報告（課題設定や仮説提示の的確さ、論旨展開における説得力等）で評価します。平常点30%、レジュメ30%、レポート40%を原則とします。
レポート未提出（提出期限を過ぎてからの提出を含む）の場合、評価点はゼロ（原則として不可）となりますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

参画型の形式は好評でしたので継続したいと思います。課題の量についてはもう少し増やす方向で検討します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。輪読する論文。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻・早退の場合は事前にご連絡ください。報告担当の回は原則として必ず出席してください（どうしても出席できない場合はお早めにご調整ください）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
人的資源管理論、労働政策
<研究テーマ>
働き方改革、非正社員のキャリア形成、女性や高齢者の活躍推進、幹部候補の人材育成など
<主要研究業績>
『営業職の人材マネジメント』（中央経済社、2012年）
『働き方改革のフロンティア』『日本労働研究雑誌』第679号（2017年）
『女性活躍推進の変遷と課題』『日本労務学会誌』第16巻第1号（2015年）
『人材育成における3つのジレンマ』『ニッセイ基礎研究所』Vol.60（2016年）
『第2章どうすれば時給が上がるのか』佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』（有斐閣、2014年）

【Outline and objectives】

Students will learn what a job is like, be presented with different perspectives on occupations, and learn more about the underlying social structure from a historical and international perspective. After that, students will review present-day policies, including the “Ability for Job Development” and the “Matching Job with Employee.” in order to think about their problems and the ideal solutions for them. Students are required to make presentations, have discussions, review reports, and submit reports and documents.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

上西 充子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値があると共に、みずからの現場に知見を還元できるような論文執筆を目指した指導を行う。演習 I では、先行研究との対話を通してみずからの「問い」を深め、適切な調査を企画・実施することに向けた指導を行う。

【到達目標】

みずからの現場に即した「問い」を明確にできる。
先行研究を適切に収集し、それらの先行研究から学ぶことができ、それをみずからの「問い」に生かすことができる。
論理的な文章でみずからの知見を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に行う。
修士論文執筆は基本的にはみずからが主体的に行う活動であり、授業ではそれを促し、補完する指導を行う。
2 年次春には、研究科のすべての院生と教員が参加して第 2 回修士論文構想発表会が行われる。その中で参加者のコメントも適宜、指導に反映させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	問題意識と研究計画書の検討 / 第 2 回修士論文構想発表会の内容とコメントの検討
第 2 回	みずからの現場の整理と問題意識の整理	みずからの現場とそこで抱いた問題意識を整理して文章化する
第 3 回	「問い」の明確化	問題意識を「問い」の形に明確化させる
第 4 回	先行研究の収集と検討 (1)	修士論文における先行研究レビューの意味を学ぶ
第 5 回	先行研究の収集と検討 (2)	先行研究の収集と検討の方法を学ぶ
第 6 回	先行研究の収集と検討 (3)	先行研究の知見を整理する
第 7 回	先行研究とみずからの研究の位置づけの整理 (1)	先行研究の知見とみずからの問題意識の相互対話を行う
第 8 回	先行研究とみずからの研究の位置づけの整理 (2)	みずからの研究を、先行研究の整理の中で位置付ける
第 9 回	調査内容の検討 (1)	みずからの「問い」に回答するための調査の内容を検討する
第 10 回	調査方法の検討 (2)	明らかにしたい内容に即した調査方法を検討する
第 11 回	調査計画の作成 (1)	調査対象、調査時期、調査内容を検討する
第 12 回	調査計画の作成 (2)	プレ調査を実施し、結果を整理する
第 13 回	調査計画の作成 (3)	プレ調査の結果を受け、本調査内容を再検討する
第 14 回	調査実施状況の確認	調査を実施し、その中で生じてきた課題を検討し、適宜軌道修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

【参考書】

・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法－他者の合理性の理解社会学』有斐閣
・小池和男（2000）『聞きとりの作法』東洋経済新報社
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

先行研究の収集と検討： 30 %
問題意識と研究目的の明確さ・適切さ： 30 %
調査計画の作成と実施： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

主体的な探求の力を高められるよう、促していきたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞労働用問題、キャリア教育、社会政策、職業能力開発
 ＜研究テーマ＞学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それにかかわる支援の在り方
 ＜主要研究業績＞
 ・「職業安定法改正による求人トラブル対策と今後の課題－法改正に至る経緯を踏まえて－」『季刊・労働者の権利』Vol.324（2018年2月）
 ・「なにが早期離職をもたらすのか」上西充子・川喜多喬編『就職活動から一人前の組織人まで』（同友館、2010年）
 ・『大学のキャリア支援』（編著、経営書院、2007年）
 ・『アルバイト・就職トラブル Q & A』（石田眞・浅倉むつ子・上西充子）（旬報社、2017年3月）

【Outline and objectives】

Second-year master's program students will be given research guidance to write their dissertations.

Direction is provided that aims to promote the composition of academically valuable dissertations and enable students to contribute knowledge and perspectives to their respective fields.

In Seminar I, students deepen their own inquiries by discussing previous studies and are given assistance in planning and conducting appropriate surveys.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

木村 琢磨

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2～4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5～7 回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8～10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11～13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

The Master's Thesis course runs throughout the final year of the Master course, and constitutes the final and concluding task in the Master Programme in Career Studies. During the course, students will study research methods, will design and do an empirical study and present this in a written report called a Master's thesis. Both qualitative and quantitative studies are welcomed.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

児美川 孝一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次を対象に、修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的なレベルを維持しつつ、社会人大学院にふさわしい論文執筆をめざす。演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な知識と技法を習得する。具体的には、問題意識の明確化とテーマ設定、先行研究のレビュー、調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈、論理的な文章を展開する方法などである。

演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、先行研究のレビュー、調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。時間の設定は、院生の意向を踏まえて決定する。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2～4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5～7 回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8～10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11～13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆などは、授業外において主体的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指定する。

【Outline and objectives】

This course gives guidance for writing master's thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

齋藤 嘉孝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2~4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5~7 回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8~10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11~13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

Instruct how to write a master's thesis of career studies. Learn thesis-writing methods for academic purposes. Includes literature review for basic themes, construction of frameworks and hypotheses, and methodological planning.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

坂爪 洋美

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導が中心となる。修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

笹川 孝一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第5回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第6回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第7回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第14回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

佐藤 厚

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

佐藤 恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第5回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第6回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第7回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第14回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

高野 良一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。自らの現場を、理論的な仮説に基づき実証研究することが目的である。演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、実証調査の企画を主に学ぶ。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な知識や理論、調査及び論文執筆のスキルを習得する。具体的に言えば、問題・課題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などである。演習Ⅰでは、問題・課題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、実証的な技法・スキルの獲得が主な目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導院生と話し合っ、隔週 2 コマ連続として開講する。通例では、土曜日や平日の夜間を利用したゼミと個別指導を組み合わせて実施する。また、修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	修士論文の意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
2	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定する指導を行う。PBL シートの記入を伴う。
3	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定する指導を行う。PBL シートの記入を伴う。
4	先行研究の収集とレビューの仕方（1）	研究テーマに関連する先行研究を収集する情報源や批判的なレビューの仕方を指導する。
5	先行研究の収集とレビューの仕方（2）	研究テーマに関連する先行研究を収集する情報源や批判的なレビューの仕方を指導する。
6	調査項目の決定と予備（第一次）調査に関する指導（1）	適切な項目と方法に基づき、実現可能な調査を設計する指導を行う。
7	調査項目の決定と予備（第一次）調査に関する指導（2）	適切な項目と方法に基づき、実現可能な調査を設計する指導を行う。
8	研究の経過報告（1）	途中経過の報告を受けて指導助言する
9	研究の経過報告（2）	途中経過の報告を受けて指導助言する
10	本調査の設計に関する指導（1）	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。
11	本調査の設計に関する指導（2）	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。
12	サンプルデータ分析の指導（1）	収集できたサンプルデータ解析の指導を行う。
13	サンプルデータ分析の指導（2）	収集できたサンプルデータ解析の指導を行う。
14	研究の中間総括	夏休みの研究・調査の課題を明確し、中間報告に向けた準備を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

特に、演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、自らが演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ整理しておくことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、テキストを指定する

【参考書】

参考書や資料は、必要に応じて、担当の教員が指定ないし配付する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

演習Ⅰでは、問題・課題意識の明快さ、先行研究を踏まえた理論や研究枠組み、調査などの実証的妥当性を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The seminar's objective is to supervise a graduate student who write a master thesis. In the spring semester(Seminar 1),the student will mainly learn to review the previous researches related with his/her thesis,to formulate a hypothesis,and to plan and do a field study. .

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

武石 恵美子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第5回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第6回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第7回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第14回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

田澤 実

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第4回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第6回	研究方法の決定、調査内容等の検討	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第7回	研究の中間とりまとめ(1)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第8回	研究の中間とりまとめ(2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第9回	研究の中間とりまとめ(3)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第10回	調査研究データの分析(1)	収集したデータの分析、整理を行う。
第11回	調査研究データの分析(2)	収集したデータの分析、整理を行う。
第12回	データの解釈	データの解釈を深く検討する
第13回	研究の総合考察	総合考察の検討と総合的なまとめ
第14回	研究の結論の検討	総合考察と結論の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Describe and explain previous studies,
- ・ Describe and explain major methods and theories.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

田中 研之輔

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文執筆にむけて準備をすすめていく）

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間も利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2~4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5~7 回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8~10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11~13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

共通参考書

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the graduate degree of career studies. This practical academic sessions provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the master thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

筒井 美紀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文執筆にむけて準備をすすめていく）

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について適宜指導を行う。

- 第 11 回 調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2) 調査の実施について適宜指導を行う。
- 第 12 回 調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3) 調査の実施について適宜指導を行う。
- 第 13 回 研究の中間とりまとめ (1) 中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
- 第 14 回 研究の中間とりまとめ (2) 中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

松浦 民恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第5回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第6回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第7回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第14回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

廣川 進

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2～4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第5～7回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第8～10回	研究方法の決定、調査内容等の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第11～13回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	調査の実施について適宜指導を行う。
第14回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This course will help you to write a master's thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

安田 節之

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。修士論文執筆を目指した指導を行う。演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及びリサーチクエスションの構成、調査の企画を学ぶ。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習は個別指導が中心となる。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第4回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	調査内容の決定	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第6回	調査内容や方法の検討	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第7回	研究の中間とりまとめ①	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第8回	研究の中間とりまとめ②	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第9回	研究の中間のとりまとめ③	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第10回	調査研究データの分析①	収集したデータの分析、整理を行う。
第11回	調査研究データの分析②	収集したデータの分析、整理を行う。
第12回	データの解釈	データの解釈を深く検討する
第13回	研究の総合考察	総合考察の検討と総合的なまとめ
第14回	研究の結論の検討	総合考察と結論の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

Students will prepare for writing their master's theses in this graduate seminar by working closely with their faculty advisers. In Graduate Seminar I, students will first conduct literature review followed by forming their research frameworks and developing a series of research questions. Throughout these processes, they will acquire skills to conduct a graduate-level research study.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I

熊谷 智博

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2～4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5～7 回	先行研究の検討	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8～10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11～13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

In this course, I instruct how to use preceding studies, to make hypothesis, and to plan survey for a master thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

上西 充子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値があると共に、みずからの現場に知見を還元できるような論文執筆を目指した指導を行う。演習Ⅱでは、調査結果の整理・分析、それに続く修士論文執筆に向けた指導を行う。

【到達目標】

調査結果を適切に整理し、的確に解釈し、「問い」に即した知見を導き出すことができる。
適切な論文構成と方法に基づき、論理的な文章でみずからの知見を修士論文にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に行う。
修士論文執筆は基本的にはみずからが主体的に行う活動であり、授業ではそれを促し、補完する指導を行う。
2年次秋には、研究科のすべての院生と教員が参加して修士論文中間発表会が行われる。その中の参加者のコメントも適宜、指導に反映させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	調査結果のとりまとめ(1)	調査結果のとりまとめ方法を検討する
第2回	調査結果のとりまとめ(2)	調査結果の要点を整理する
第3回	調査結果の分析(1)	調査結果を適切な方法で分析する
第4回	調査結果の分析(2)	調査から得られた知見を暫定的に整理する
第5回	研究の中間とりまとめ(1)	修士論文中間発表会に向けた整理を行う
第6回	研究の中間とりまとめ(2)	修士論文中間発表会の結果とコメントの検討を行う
第7回	論文の構成の検討(1)	すぐれた論文の構成から学ぶ
第8回	論文の構成の検討(2)	みずからの論文の構成を検討する
第9回	論述の検討(1)	先行研究のレビューと研究の意義に関する論述を検討する
第10回	論述の検討(2)	研究方法に関する論述を検討する
第11回	論述の検討(3)	研究結果に関する論述を検討する
第12回	論述の検討(4)	研究結果に関する論述を改善する
第13回	論述の検討(5)	研究課題とまとめに関する論述を検討する
第14回	論文全体の仕上げ(1)	全体の構成と得られた知見を再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

【参考書】

・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法－他者の合理性の理解社会学』有斐閣
・小池和男（2000）『聞きとりの作法』東洋経済新報社
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

調査結果の整理と分析：30%
先行研究の整理とみずからの研究の位置づけ：20%
論文構成と論述の論理性：20%
知見の社会的重要性：30%

【学生の意見等からの気づき】

主体的な探求の力を高められるよう、促していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若年雇用問題、キャリア教育、社会政策、職業能力開発
<研究テーマ>学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それにかかわる支援の在り方
<主要研究業績>

・「職業安定法改正による求人トラブル対策と今後の課題－法改正に至る経緯を踏まえて－」『季刊・労働者の権利』Vol.324（2018年1月）
・「なにが早期離職をもたらすのか」上西充子・川喜多喬編『就職活動から一人前の組織人まで』（同友館、2010年）
・「アルバイト・就職トラブル Q & A」（石田眞・浅倉むつ子・上西充子）（旬報社、2017年3月）

【Outline and objectives】

Second-year master's program students will be given research guidance to write their dissertations.

Direction is provided that aims to promote the composition of academically valuable dissertations and enable students to contribute knowledge and perspectives to their respective fields.

In Seminar II, supervision is provided first in organizing and analyzing survey results and subsequently in composing a master's dissertation.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

梅崎 修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

木村 琢磨

【Outline and objectives】

The Master's Thesis course runs throughout the final year of the Master course, and constitutes the final and concluding task in the Master Programme in Career Studies. During the course, students will study research methods, will design and do an empirical study and present this in a written report called a Master's thesis. Both qualitative and quantitative studies are welcomed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2、3回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第4～8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9～11回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第12～14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

児美川 孝一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値があり、かつ社会人大学院にふさわしい論文執筆をめざす。

演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法のうち、演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。時間の設定は、院生の意向も踏まえて決定する。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2, 3 回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 4~8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 9~11 回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 12,13 回	論文の最終チェック (1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章ごとの内容の観点から行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆などは、授業外において主体的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指定する。

【Outline and objectives】

This course gives guidance for writing master's thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

齋藤 嘉孝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて講義形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2, 3 回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 4~8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 9~11 回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 12~14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

Instruct how to write a master's thesis of career studies. Learn thesis-writing methods for academic purposes. Includes conducting surveys and interviews, analyses, and consideration on the basis of the course I.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

坂爪 洋美

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

笹川 孝一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤 厚

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤 恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

高野 良一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識や理論と調査・研究スキル、つまり、問題・課題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめるスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、隔週2コマ開講を基本とする。通例では、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
2, 3	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認する。
4, 5	調査結果の整理に関する指導	調査結果の取りまとめ方に関する指導助言を行う。
6, 7	調査結果の分析・解釈に関する指導	結果の分析・解釈の妥当性・論理性への指導助言を行う。
8, 9	論文執筆に関する助言・指導：内容構成・章立	論文の構成、章立てへの指導助言をする。
10, 11	論文執筆に関する助言・指導：先行研究レビュー	先行研究レビューの妥当性、論文の意義づけ・位置づけについての指導助言をする。
12, 13	論文執筆に関する助言・指導：図表・引用等	説得力や明証性のある図表、適切で妥当性のある引用にする指導助言を行う。
14	完成原稿の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

適宜、文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The seminar's objective is to supervise a graduate student who write a master thesis. In the autumn semester(Seminar II),the student will be advised to finish writing a thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

武石 恵美子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田澤 実

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査の実施
第 3 回	調査の実施状況の確認	調査が適切に行われているか、進捗状況の確認と指導
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果の取りまとめ方の再検討
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	研究テーマに即した分析
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	研究テーマの解釈に関する指導
第 7 回	論文執筆の助言、指導	論文の構成
第 8 回	論文執筆の助言、指導	論述方法
第 9 回	論文執筆の助言、指導	先行研究への言及の方法
第 10 回	論文執筆の助言、指導	データ解析結果の提示の方法
第 11 回	論文の章立てチェック (1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、章立ての観点から行う。前半の部分扱う。
第 12 回	論文の章立てチェック (2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、章立ての観点から行う。後半の部分扱う。
第 13 回	論文の最終チェック (1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、問題意識、目的、方法の観点から行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、結果と考察の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
- ・ Apply theories or findings to real world situations.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田中 研之輔

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文完成にむけて執筆と検討をすすめていく）

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2, 3 回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 4~8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 9~11 回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 12,13 回	論文の最終チェック (1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章ごとの内容の観点から行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the graduate degree of career studies. This practical academic sessions provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the master thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

筒井 美紀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文完成にむけて執筆と検討をすすめていく）

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	論文執筆の助言、指導(1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第11回	論文執筆の助言、指導(3)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第12回	論文執筆の助言、指導(4)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第13回 論文の最終チェック(1) 修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

第14回 論文の最終チェック(2) 修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

松浦 民恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

廣川 進

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This course will help you to write a master's thesis.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2、3回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第4～8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9～11回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第12～14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

梅崎 修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第5回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第6回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第7回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第14回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

安田 節之

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。修士論文執筆の完成を目的とした指導を行う。演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを学ぶ。演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて講義形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2,3回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第4~8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9~11回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第12,13回	論文の最終チェック①	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章ごとの内容の観点から行う。
第14回	論文の最終チェック②	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

Students will complete their master's theses in Graduate Seminar II. In this seminar, particular attentions will be placed on conducting data collections and analyses. Students will then finalize their theses by integrating research questions and study findings in their discussions.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

熊谷 智博

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて講義形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2,3回	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第4~8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9~11回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第12~14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

In this course, I will supervise how to analyze data and to write a master thesis.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習 I (代表シラバス)

佐藤 恵、坂爪 洋美

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (2)	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (3)	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討 (3)	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討 (1)	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討 (2)	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討 (3)	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR6M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ（代表シラバス）

佐藤 恵、坂爪 洋美

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認(1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導(1)	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導(2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導(3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導(4)	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ(1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ(2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ(3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

